

SCOUTING

スカウティング

No.483
1993

8

特集

機関紙を考える～紙面に見える各国の活動

オニヅカさん最後のメッセージ
ローバームート'93 IN HOKKAIDO



財団法人

ボーイスカウト日本連盟

11NJ

もっと身近に感じます。



第11回日本ジャンボリー(11NJ)は、1994年8月3日(水)～7日(日)に、大分県にある久住高原で開催されます。テーマは「蒼き草原より未来へ ― 地球にやさしいジャンボリーをめざそう!」です。久住高原の緑をデザインした11NJのマークを手元に、ぜひ11NJを先取りしてください!

■Tシャツ(B-Pデザイン画)

¥1,300

カラー:オリーブ Sサイズ 品番75981
Lサイズ 品番75982
カラー:ネイビー Sサイズ 品番75983
Lサイズ 品番75984
Sサイズ 胸まわり 91.4cm、肩丈 68.8cm
Lサイズ 胸まわり 111.8cm、肩丈 77.5cm



■ピンバッジセット

¥3,300 品番75974

歴代のジャンボリー参加章をデザイン。蝶バネ式ピン加工。プラスチックケース入り。コレクションに、贈り物に最適。(パッケージの仕様は実際とは異なります。)

■キーホルダー (ツメ切り)

●3×4cm、全長9.5cm
¥350 (黄色)品番75954 (水色)品番75955

人気のブランド、フルーツ・オブ・ザ・ルームの生地(霜降り)コットンTシャツ(米国製)にB-Pのスカウト画をプリント(写真はオリーブ)



キーホルダーとツメ切りがドッキングし、メを切ってスカウト活動には欠かせない。



■キャップ

¥1,500 品番75944

キリリとしたトリコロールカラーに大会テーマを刺しゅう。フリーサイズ(後部アジャスター付)、綿ツイル

■フィールドチェア

●幅23×奥行24×高さ43cm、700g
¥1,100 品番75934

大会には必須のアイテム。折りたたみ式、鉄パイプクローム仕上げ、ナイロン生地。



■チーフリング

①いぶし銀
●タテ3.1×ヨコ4.3cm
¥460 品番75901



②エッチング樹脂
●タテ3.3×ヨコ4.4cm
¥600 品番75902



■ボールペン

●長さ13.5cm ●ひも部分(アジャスター付)64cm

(白色)
¥600 品番75952

(黄色)
¥600 品番75953



■クリアファイル (1セット5枚)

●A4サイズ用
¥500 品番75951



■ワッペン

ビッグワッペン (刺しゅう)

●タテ11×ヨコ15cm
¥1,300 品番75921



織(精円)
●タテ7×ヨコ9cm
¥450 品番75922

■ピンバッジ(電鍍)

●(蝶バネ式)タテ1.4×ヨコ1.8cm
¥350 品番75913



③革(丸)
●直径5cm
¥500 品番75903



■タイ止め

②(銀) ●全長5cm
¥780 品番75972

①(金) ●全長5cm
¥780 品番75971



誌上ショッピングご利用にあたってのお願い

●ご注文は本誌とじ込みの払込通知票をご利用ください。お電話によるご注文はお受けできませんのでご了承ください。
●登録番号(10桁)およびお名前フリガナを必ずご記入ください。●荷造り送料は別途実費を請求させていただきます。

お詫びと訂正 1993年度版需品カタログに誤りがありましたのでお詫びして訂正いたします。カタログ28ページ、スカウトバッグ 品番79550 ¥500(誤)→¥600(正)

1993
8 AUGUST

特集

～機関紙を考える～



紙面に見える各団の活動

		4
投 稿	オニヅカさん最後のメッセージ	10
発 表	第20回全国ボーイスカウト写真コンテスト入賞作品発表	14
連 載	人物逸話事典 134 真田幸村 太田信行／伊藤展安	18
活 動	DO スカウティング	20
連 載	結びの街道 その五	22
討 論	組織拡張 私は、こう考える	25
情 報	加盟員倍増5 か年計画への取り組みをふり返って	28
連 載	11NJ情報⑤	30
連 載	ローバームート'93 IN HOKKAIDO	32
連 載	スカウトの日	34
情 報	日本連盟からのお知らせ	35
情 報	需品部からのお知らせ	36
情 報	レター&トピックス	39
情 報	'93年版ポスター、リーフレット	40
紹 介	ボーイスカウト運動のために ～維持会員加入のご案内～	41
SHOPPING	誌上ショッピング	2
NEWS	需品部ニュース	43

特集

機関紙を考える



紙面に見える各団の活動

日本連盟の加盟員数は約二十六万人。団の数にすると三千四百余り。どんな組織でも必要になるのは、情報を周知徹底する手段である。

団、地区、県連盟、日本連盟と、どの組織においても「末端まで情報が伝わらない。」というのをよく耳にする。組織が大きくなればなるほど、そういった問題は付きまとうものだが、それをどう解決していくかは大きな課題である。さて、今回は団のレベルでこの課題を検討していきたい。現在、多くの団で日々活動がなされているわけだが、何らかの形で保護者あて、あるいはスカウトあてに機関紙なり、連絡の手紙が配布されていることだろう。ある団では多くの手間をかけて、りっぱな機関紙を発行している。また、ある団では必要最低限の連絡事項を記したメモを配布している。このあたりは、各団の考え方、抱える事情によって変わってくることだろう。そのあたりの実状を、各団で発行している機関紙を紹介しながら考えていきたい。

ボーイスカウトの機関紙

「機関紙」と言うとおおげさすぎるという声もあるかもしれない。広辞苑によると機関とは「個人または団体がその目的を達する手段として設けたもの」とある。すなわち機関紙とは「目的達成のために資する新聞」とでもいうことになるのだろうか。

ボーイスカウトの中には、日本連盟発行の「スカウト」「スカウティング」という機関誌があり、県連盟ごと、あるいは、地区、団で発行されている機関紙がある。

実際にはその呼び方もまちまちであるのだから、ここでは一応「機関紙」ということで統一したい。さて、日本連盟に日頃から、団の機関紙をお送りいただいている団がいくつかある。どれも個性的で、紙面にはそれぞれの団の活動があふれ、それを作っている方のご苦労がにじみ出ている。あるものは手書き、あるものはワープロで仕上げている。また、カラーコピーまで駆使してある豪華版もある。B4判一枚のものあれば、B5判で何ページかにわたっているものもある、といった具合である。

担当者の苦勞

担当されている方の声を聞いてみると、やはり「原稿が集まらない」というのが一番大きな悩みであるようだ。

「お願いしなくても、記事がどんどん集まるのが理想ですが、実際にはなかなか集まりません。行事案内、報告、リーダーの方々にお願いした記事の他に一般会員の方が、気軽に自分の考えなどを寄せて欲しいと常々思っています。」

(東京・世田谷第十団畔田絹子さん)

しかし、思わぬ人から原稿をもらったり、前号の記事に対して反応があったりすると、とてもうれしいという声も多くあった。

また、機関紙の配布方法についても悩みは多いようである。

「配布先がかなり広範囲の地域なので、郵送費節約のため広報委員が手分けして配布しています。しかし、印刷後すべての広報委員が配布することがなかなかできず、緊急のお知らせが一部の方に届かなかったりすることがあります。(前出の畔田さん)」

やはり小さな組織でも、郵送料の負担は大きい。かといってすべての家庭に配って回るというのも大きな負担となる。どちらを選ぶかは団の事情をふまえてということになる。

「育成会員への配布は、年一回の総会時に、あて名明記、切手貼り付けの封筒を持ってきてもらっています。(千葉・船橋第一団三橋貞夫さん)」

それぞれに、工夫をしているようである。

編集をする人数についてもさまざまである。十数名で分担して作業をしているところもあれば、一人ですべてをこなしているという場合も多いようだ。

「創刊当初は数人で編集しましたが、現在は一人で取材(団会議、団委員会に出席して、原稿作り、印刷をしているので苦勞はありますが、みなさんに団の動きを知ってもらえることに満足しています。(東京・狛江第一団山本義二さん)」

周囲の協力があつてこそ、一人でも作っているのだろうが、その負担を考えると頭の下がる思いである。



機関紙の意義

さて、担当者の苦勞は絶えないが、この機関紙に期待するのはどんなことなのだろうか。

「カブからボーイへ上がってしまうと、カブのように集会への参加がなくなり、保護者も心配でならないといった声があり、いくらかでも活動のようすが分かれば安心するのではないかとということが動機で。(前出の三橋さん)」

「スカウトの作文力、表現力アップ(大阪第十一団赤塚勝巳さん)」



印象的な二点をあげたが、団内の連絡、連帯意識の向上のため、活動状況を関係係者によく知ってもらうため、保護者への活動予定の連絡、報告などといった役割が主なようだ。

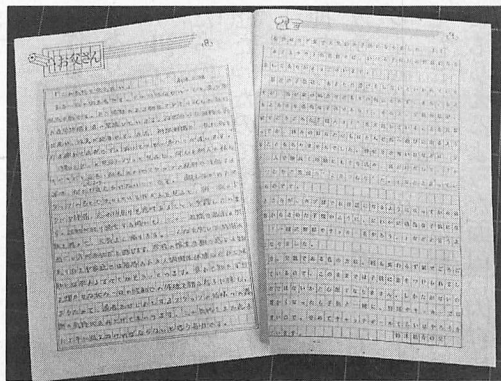
「スカウトは熟通いなどで帰宅が遅くて、電話連絡網もままならないので、必要にせまられて」ということもあるらしい。

また、一面で保護者間の意見交換、親睦の場となっていることもあるようだ。

「各隊スカウト、保護者の感想文を通して、相互のコミュニケーションをはかる(宮城・仙台第一団森谷吉二さん)」

その他、記録としての役割も大きい。日頃の活動を記録していくことで、その積み重ねが貴重な記録となることはまちがいない。

苦勞は多いが、得るものも大きいといったところだろう。



見よ！ぼくらの隊の機関紙を

埼玉・川口第三団、3兄弟紙



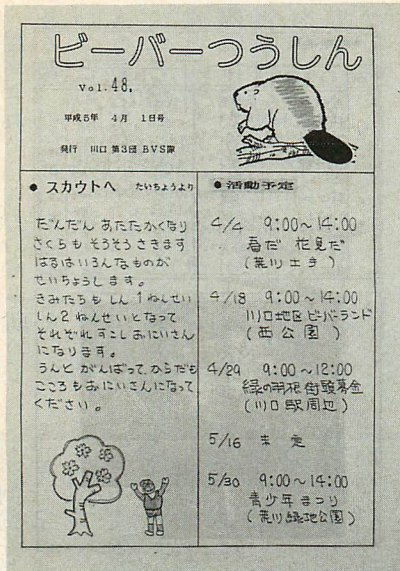
が川口第三団。

「やる気あふれるビーバー隊長が作ったビーバーつうしんに始まって、その影響を受けたボーイ隊が続いて発行、そして最近カブも負けじと創刊しました。各隊ともがんばっています、機関紙を通して各

ビーバー、カブ、ボーイと、同じ団でそれぞれの隊が機関紙を発行しているの

隊の活躍を他の隊のリーダーや、保護者にも知ってもらえたらと考えています。それには、部数を増やしてお互いに交換するより、団報としてまとめたほうが、費用や配布などの手間を考えると効果的かと思っています。ボーイ隊出戸真佐子副長」

それぞれに个性的で、一つにまとめたしまうのはもったいないで、きばえの各紙。今後の飛躍を期待しよう。



ビーバーつうしん

B5判、全8ページ。隊長からスカウトへのメッセージ、保護者への連絡、活動の予定、報告、スカウトの絵などが掲載されている。所々に色エンピツなどで色が入れてあって、リーダーの熱意があふれている。

「ふだん会えないスカウトの父親から、思わぬ素晴らしい原稿をもらったことが印象に残る」と大森隊長。

川口第三団でボーイ隊の機関紙「アンビション」を担当されている出戸真佐子さん(副長)にうかがいました。

編集作業は何人くらいでしているのですか。

これまでは私が一人でやっていたんですが、今はワープロを打てる人が手伝ってくれてますので、二人になりました。それまでは、ふた晩(約七時間)かかっていましたけど、ずいぶん編集が楽になりました。今は二時間くらいになりましたね。

発行は月に一回ですね。

月に一度というのは、実際すぐには回ってきても大変です。でも、何か月に一回とか、季節に一回だと、ニュースとしての価値がうれるのと、必ずこれこんで発行できなくなるので、月一回のペースは守りたいですね。間隔が短いと原稿を集めるのが大変なんです、原稿が集まらなくても最低限の予定と報告だけでも知らせたいと思ってます。

発行する目的はどんなことなのでしょう。

四つほどあると思います。まず一つ目は、スカウト、リーダー、保護者の連絡を密にして親睦を深めること。二つ目に、保護者に活動を理解してもらうこと。それから、うちの団の他の隊のリーダーにもボーイ隊の活動を知らせること。あとは、隊としての記録ということになると思います。

ですから、内容も今月の予定や、活動報告、スカウトの作文、隊長からのメッセージなどが中心になります。ときどき、料理やクイズのコーナーも設けています。

作る上で気をつけていることはありますか。

初めは、スカウトたちが自分たちの手で作ってくれるのが理想だったのですができませんでした。ですから、作る側からの押しつけにならないように、スカウトの声や、保護者の言葉を多く載せたいと思っています。それと、スカウトに興味を持ってもらえるような面白い内容にしたいと思っています。



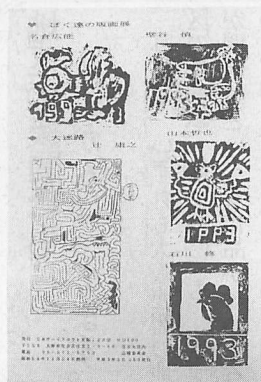
アンビション (Ambition)

B5判、全8ページ。アンビションとは大望、抱負といった意味。ボーイ年代らしいダイナミックな活動が伝わってくる。スカウトたちの声がたくさん掲載されていて、原稿集めの苦労の成果といった趣がある。「新聞に書いた予定を、スカウトたちが知らなかったりするとがっかり」と出戸副長。



カブニュース 冒険王

B5判、全8ページ。この表紙はカラーコピーされていた。ビーバーつうしんと同じく、所々に色が入っていた。イラストが多用されていたりしてカブスカウトもあきないで見られる内容。保護者の投稿が印象的。「スカウトがとても楽しみにしてくれている」と板橋隊長。



これから「継続は力なり」をモットーにがんばっていきま

す。映像に慣れているスカウトたちには、新聞というメディア自体に難しさがあるかも知れませ

ん。もう一つは、新聞を読んでも、知らないという悩みもあります。スカウトも保護者も、予定を知らなかったりするとがっかりしますね。

苦勞されている点はあるのかな？と

今回の特集にあたって、十四の団にアンケートを実施しました。その結果を見ると、各団のさまざまな苦勞と、工夫が見えてきます。

まず、編集にたずさわる人数はというと、平均五名程度。ただし、二名から十数名までと、各団によってかなり開きがあります。「江戸っ子タイムズ」を発行している東京・台東第七団では、ローバースカウトの活動の一環として九名が作業をしています。

次に、編集の作業時間。これは平均八・二時間。中には一週間という回答もありましたが、実質的な作業時間を考えると同じくらいの時間でしょう。忙しい生活の中にあつて、かなり手間のかかるもののようです。

気になる経費はというと、コピーを使用しているところでは平均三十円程度。印刷機を使うと部部刷って意外と安く三円という例もありました。外注はというと、二、三百円とかなり割高にはなりますが、それなりにいいものに仕上がっています。刷り数の平均が約百八十部ですから、印刷機で刷るのがベストのようです。

機関紙作りのいろは

うちの団の自慢の顔 見てください、私たちの機関紙



団の機関紙は、まさに星の数ほど発行されていることだろう。しかし、ほかの団の機関紙を目にする機会というのはほとんどないのではなからうか。

ここに紹介するのは、日連事務局に送られてきている一部。創刊百号を迎えたものもある。最近始めたものもある。ぜひあなたの団のものとからべてほしい。そして、まだ機関紙がない、という団には参考にしてほしい。

大阪第二三三団

今年二月に百号を発行した。ネーミングがよい。月一回発行。

千葉・船橋第一団

スポンサーも得て、立派な体裁。堅実派。隔月で発行。

東京・狛江第一団

地味ながらも充実した内容。月一回発行。



地区の機関紙も

がんばってます。

写真は、いずれも大阪連盟の地区の機関紙。他の地区でも、「さすが関西」といった作品がせいぞろいしています。

全国各地の県連でも、多くの地区で機関紙が発行されています。地区行事や、地区内の団の紹介など身近な話題が多いだけに、ぜひ目を通してみたいものです。



ワープロVS手書き

私たちの生活の中に、すっかりとけこんだワープロ。このワープロの普及が、各団の活動にどれだけ役立っていることか。「私は字がきれいではないので」としりごみしていた方の中には、このワープロに助けられて機関紙発行を思い立った方も多いのではないだろうか。

どの機関紙を見ても、ほとんどがワープロを利用しています。レイアウトの機能をあわせもった機種を利用すれば、軽印刷レベルの機関紙もあつというま。このレイアウト作業についついのめり込んでしまつて、ああでもない、こうでもないをやっているうちに、気がつくとう東の空が白々と・・・といった経験をお持ちの方もいらつしやることでしょう。

一方、手書きも健在です。手書きの良さは、何といつても書いた人の人柄がにじみ出てくること。ワープロとは一線を画した「味」がでています。ワープロの前ではついつい気取つてしまう人も、紙の前で自然体で「ザツ」と一気に書き上げられるメリットもあります。

大阪・貝塚第二団

タイトルが他を圧倒し、印象的。月一回発行。



東京・台東第七団

対象の七十八パーセントが読んでいるという。隔月で発行。



東京・世田谷第十団

ちょっとした文章が楽しい。月一回発行。



宮城・仙台第一団

表紙のイラストがすごい。月一回発行。



名古屋七十八団

つい最近創刊。日頃会えない人からの反応がうれしい。



大阪第十一団

ボーイとガールがつしよに歩んでいる。年十回発行。



徳島第一団

他にはない、恐ろしいほどのパワーを感じる。



福井第二十三団

シンプルゆえのさわやかさを感じる。



大阪・島本第一団

かわいイラストが目をひく。カプ隊発行。



県連盟の機関紙

四十七県連のうち、三十三の県連盟で機関紙が発行されています。取材の対象が県下全域となると、苦勞も多いようです。それをカバーするために、県内のスカウトをレポーターに任命してニュース集めをしているところもあるとか。県内の話題がいっぱいで、実用性大です。



機関紙のあした

「始めるのはたやすいが、続けるのは大変」なのが機関紙作りである。続けるためには作る側の熱意とともに、読む側の反応も大切である。そうした読者の声により良い紙面作りにつながっていく。

今回取材をした中には、充実した機関紙を発行したものの、後が続きなかった、といった例もいくつかあった。これを、「三ヶ月会報」と言うらしいが、ここには作る側の努力が足りなかった部分もあるだろう。しかし、読む側にほんの少し、一緒に作りあげようという姿勢があったなら結果はちがっていたかもしれない。

団、あるいは隊の機関紙には「みんなで作る」といった要素が非常に大切になってくる。そんな気持ちが一つになったときに、今回紹介したような機関紙が生まれてくるのだろう。

みなさんの団では「みんなの機関紙」になっているだろうか。素敵な機関紙が発行され続けることを期待したい。

一冊の本から

オニヅカさん最後のメッセージ

沖縄県連盟北部地区コミッショナー 仲嶺真仁



本誌1986年3月号から、写真提供・浄土真宗本願寺派 西本願寺

＊エリソン・S・オニヅカ氏
1946年6月24日、ハワイ島コナ市ケアラケア村生まれの日系3世。8歳のときにカブスカウト隊に入団。その後もスカウティングを続け、最高の栄誉であるイーグルスカウト章を取得する。アメリカ空軍を経て、1978年1月宇宙飛行士に選ばれ、1980年1月にスペースシャトルディスカバリーで宇宙への初飛行を経験。1986年1月28日スペースシャトルチャレンジャーの爆発事故により死亡。

毛利衛さんの見た

ボーイスカウト

一九九三年二月十五日、第四級アマチュア無線技師養成講習会に法規の講師として出かけたおり、たまたま近くにあった本屋さんに立ち寄ったところ、講談社から発行された毛利衛さんの「宇宙実験レポート・from U・S・A スペースシャトルエンデバーの旅」という一冊の本を見つけた。

毛利さんについてはテレビなどでレポートをしていましたから、宇宙実験がその後どうなったのかと軽い気持ちでその本を手に取り目を通してみました。読み進めていくとオニヅカさんについての記述に目が止まりました。あのスペースシャトル事故で亡くなられたエリソン・S・オニヅカさんのことが書かれているのです。スカウティング誌の一九八六年三月号十四ページでも「イーグルは宇宙の彼方へ」と題して紹介されていたから、ご存じの方も多いことと思います。

さっそく購入して読んでみる

と、それには一項目を割いて次のようなことが書かれていました。「事故の二か月前に故郷のボーイスカウト団長に宛てた手紙を見ることができた」「宇宙飛行士の訓練にとって、ボーイスカウト時代の体験がいかに役立っているか」「チームワークとは何か、チームで仕事をなしうるためにはどんなことに従わなければならないか、そんなことをハワイの子どもたちにむけたメッセージとして書き記しているのだ」。そして最後に毛利さん自身「日本人として彼の意志を引き継いでいきたい」とほぼこのようにまとめられていました。

また別のページには、訓練の中で「ジョークを考えてくるように言われた」。そしてさらに、長い訓練や宇宙船の中で寝食をともにし仕事をしなければならぬわけですから「ジョークは、食物と同じように大事なものと書かれています」。

「チームワークとは何なのか、どんなことに従わなければならないか」、久しく考えることなく来たような気がします。チームで仕事をする上では、何でもこなせるオールマイティーな人で

ある必要はありません。それが、担当する仕事について確実にこなせる人であればよく、パイロットが客室乗務員を兼ねるということはできない相談です。その反面その集団としての基本的規律に従わなくては、その安全すらおびやかされてしまいます。我々はそのすべてをこなす人を求めがちではなかったでしょう。

ジョークで思い出しましたが、沖縄のアメリカ連盟の事務局を訪ねたときに、初対面の私に職員がたびたびジョークを言い、そのためにうちとけてなごやかに歓談できたことがあります。「スカウトは快活である」ということを実感したものでした。宇宙に飛び立つ集団は、仕事についてはそれぞれのエキスパートであり、そして個人的には洒落や冗談を解する明るい人であり誠実な人であるなど、ちかいかおきてにある人間像を実践していかねばならないようです。どうやら、NASAの宇宙飛行士とはスカウトそのものであり、スペースシャトルという特殊な環境でもスカウト訓育が生きているようです。

オニヅカさんの スカウティング

さて、こうなるとどうしてもオニヅカさんの手紙の原文を読んでみたいと思うようになりまして。スカウティングについてどのように書かれているのか、またどのように考えていたのかを知りたくなったのです。

B・P祭のうちにスカウト仲間に入手のための協力を依頼したり、日本連盟に電話して手紙のことを尋ねたり、講談社を経由してNASDAの毛利さんの事務所へ電話したり、沖縄のアメリカ連盟事務局へ訪ねて行ったりと、あらゆる手をつくしました。しかし、毛利さんの事務所から「手紙に関する資料はない」との返事を受け、日本連盟事務局でも「手をつくしたが資料は見つからなかった」とのことでした。どうやら国内では、この件についてまだ知られていないようでした。

ん。沖縄県連盟事務局長の山田さんから地区コミッショナーの町田さんに相談したらどうかとのアドバイスを受け、町田さんからは沖縄県連盟副理事長の阿部さんはこんな話が大好きとのこと。今度阿部さんに連絡をしました。阿部さんによると五月開催予定の「日米友愛ジャンボレット」の打ち合わせが明日あるということなので、私も同席してお願いすることになりました。

二月二十四日、やっとハワイの事務局とコンタクトがとれました。幸い前任のスカウト主事のフォーチン氏がハワイにおられるとのこと、スカウト主事のシマンスキー氏が連絡を引き受けてくださいました。また、今度のジャンボレットでも紹介しようということで話がまとまりました。

三月十二日、待ちに待った連絡が阿部さんからありました。前日の夜に入手したそうで「手に入れたぞー」の電話に那覇まで受け取りに出かけて行きました。とにかく早い対応でした。そのことを阿部さんに話すと「シマンスキーさんは、エリソ

ン・オニヅカは日本の英雄かもしれないが、我々の英雄でもあるんだぞと話していた」とのことでした。また、ハワイでもいろいろ手早く手を打ってくださったようで、スカウト仲間の頼もしさを感じました。何点かの



第11回日米友愛ジャンボレット、国はちがってもスカウト仲間だ。

コピーを受け取るとその足で中山県コミッションにお会いし、翻訳を依頼しました。四日後、トレーニングチームのミーティングで中山さんから翻訳文を受け取りました。仕事柄、実に多忙な中で翻訳に時間を割いてくださったのです。ここまで至るのに、日米の多くの仲間が最大の努力をしてくださいました。彼らもまた私と同様、この手紙を読んでみたいと思っっている方々ばかりだったのです。

原文を読んでみますと、オニヅカさんが一貫してスカウティングを支持し、彼を育てた郷土と指導者に感謝し、そして今日

オニヅカさんのメッセージをまとめてみました。

1964年9月24日

「より多くの、いやすべての少年たちにエクスプローラー活動を真剣に受け止めてもらいたい。スカウティングの持つ社会的で前向きな物の見方が、本当に自分の力となっているのです」(抜粋)

の指導者を励まし続ける姿が浮かび上がってきます。また、B・Pの最後のメッセージとも重なり合い、私にはそれに匹敵するように思えました。それだからこそ毛利さんに「日本人として彼の意志を引き継ぎたい」と述べさせることができたのではないかとも思います。

一冊の本が、知ることの楽しみと感激を与えてくれました。「宇宙実験レポート」執筆者の毛利さんに心から感謝申しあげます。毛利さんがスカウト関係者かどうか分かりませんが、スカウティングに興味を示されたことは文面に感じられます。日本

1982年11月22日

ノーマン サカタ氏へ
ホルアロア、ハワイ
親愛なるノーマンさん

私の最近のSTS-10への配属に対し、思慮深い手紙をいただき有難うございます。私は、我が国の国防総省の任務に就くことを大きな誇りとしており、自分の選択に満足しています。私の経歴において、ここまで

連盟が毛利さんに働きかけを行い協力を仰ぐことがかなえば、スカウト関係者に与える影響は多大なものがあると思われます。

私自身、本土復帰前のエクスプローラー(アメリカ連盟の進級の上での部門の一つ)であり、沖縄の最初で最後のエアースカウトでした。今でも天体観望を続け、遥か彼方のETやUFOに思いをはせることもあります。我々の指導する少年の中から宇宙へ飛び立つ人が出るとしたら、実に素晴らしいことではないかと思えます。

オニヅカさんの手紙のコピーはNASAの提供と聞いていま

これはことは、私の人生に大きな影響を与えてきた数多くの方々の努力の賜物であります。私をここまで支えてきた故郷の多くの方々から感謝申しあげます。

私は、自分が育ったコナのことを良く覚えており、スカウティングは私の人生に常に前向きな影響を与えてまいりました。リーダーシップ、自信そして個々の特性を伸ばすという点

すが、ハワイのフォーチン氏以後、アメリカでの経路はまだ確認がとれていません。NASAおよびアメリカのボーイスカウトが資料収集をこういう面にまで進めていることに感銘を受けました。快く提供いただきましたアメリカの関係者の皆様に謝辞を申し述べ、今後大事に扱い活動の糧にしたいと思えます。また、入手に関し御尽力くださったNASA D A毛利氏事務所職員、日本連盟、沖縄県連盟およびボーイスカウトアメリカ連盟の各氏に記してお礼を申しあげます。最後にオニヅカさんのご冥福をお祈りいたします。

で、スカウト活動が今日の青少年に与えるものは偉大であります。私はスカウティングが教えてくれたことを常に心に止めており、貴方のように我々を手助けし、教え、導いてくれた献身的な方々がおられたことに感謝の念でいっぱいです。私は、マチュヘネラル氏と貴方が我々のエクスプローラー活動のために提供してくれた多くの時間とプログラムや事業を思い出し考え

National Aeronautics and
Space Administration
Lyndon B. Johnson Space Center
Houston, Texas
77058

10-11-11
1993

NASA

cc: CB

November 22, 1982

Mr. Norman Sakata
P. O. Box 307
Holualoa, Hawaii 96725

Dear Norman:

Thank you for your very thoughtful letter regarding my recent assignment to the STS-10 crew. I am very pleased with my selection and most honored to be able to serve on our nation's first Department of Defense mission. Getting to this point in my career was an effort on the part of many people who have had an influence in my life. My heartfelt thanks go out to all the fine people back home who made it possible.

I remember growing up in Kona very well and scouting was always a positive influence in my life. The leadership, self confidence and development of personal attributes ingrained into today's youth by the scouting program is tremendous. I always remember the great things the program taught me and I am thankful that there were dedicated people like you who were there to help, teach and guide us. When I stop to think of the many hours, programs and events Matthew Heneralau and you devoted to our exploring experience, the 60-80 hour weeks of training to get ready for STS-10 next year become very insignificant.

Please give my best regards to the many devoted and dedicated individuals at the next Annual Kona District Recognition Banquet. Scouting is a great program and it needs the support of people who have the resolve to make the next day better. It is only because of people like those at the banquet that others like me can grow up in the coffee fields of Kona and fly on the Space Shuttle. As Alan Shepard once said, "It's easy to reach out and touch the moon when you're standing on the shoulders of giants-you are all "giants". Thank you for helping me to "Be Prepared".

Sincerely,

Ellison S. Onizuka

Ellison S. Onizuka
NASA Astronaut

てみると、来年STS-10の隊員として受けることになる六十時間から八十時間の訓練は十分乗り越えていけるものと思えます。

次のコナ地区の表彰祝賀夕食会において、多くの献身的な方々によりしくお伝えください。スカウティングは素晴らしいプログラムであります。それはまた未来をさらに良くしようと考えている人々の手助けを必要としています。そのような人々のおかげで、コナの茶飲み友だ

ちの中から、やがては私のようにスペースシャトルで飛ぶ人も育つことができるのです。アーレン・シェパード氏がかつて述べたことがあります。「もし、巨人の肩に立ったとすれば、手を伸ばし月に触れることはたやすいことだ」と。皆様はまさにその巨人であります。「そなえよつねに」と私を支えていただいたことに感謝申しあげます。

エリソン S・オニヅカ
NASA 宇宙飛行士 敬具

1985年12月27日

親愛なるスカウト、リーダー、そして関係者の皆様

ここに数多くのスカウト関係者の皆様とともに、アメリカボーイスカウト活動の推進、発展に貢献された方々を表彰する場に同席できることを心から喜びとしております。コナ地区におけるスカウト加盟員の増加は、少年たちの人生を変える皆様の努力と献身の証です。テキサス・ヒューストンにあるジョンソン宇宙センター内の宇宙局の我々も、皆様のご努力をたたえ皆様とお近づきになれたことを誇りに思います。

スカウトの一員として、私や多くの仲間たちはスカウティングで身につけた社会性、リーダーシップ、自己修練の体験が大人としての責任を身につける上で大いに役立ったことを承知しております。「神と国とに對するつとめ」「他の人々に對するつとめ」という高い価値観を身につけた人、真の意味での善行を知る人が今求められています。スカウトのちかいの最初の

言葉には、我々が多くの仕事に立ち向かうときや、日頃の生活の中で何か決断を下すときに思い起こすべき哲学があります。「私は名譽にかけて最善をつくします」という言葉には、その人の将来に決定的な影響を与える深い意味が込められています。

一九八六年のボーイスカウトの表彰式および認証式の夕食会にお招きいただき有難うございました。

スカウト出身者として、また全国イーグルスカウト協議会の会員として皆様に対し「そなえよつねに」と私を支援してくださいましたことに感謝申しあげます。

今晚表彰を受けられた皆様に心からお祝い申し上げます。皆様の榮譽に對し敬意を表するとともに、引き続きスカウト活動にご尽力くださいますようお願い申し上げます。

エリソン S・オニヅカ
Lt. Colonel USAF
NASA 宇宙飛行士 敬具

入賞おめでとう！

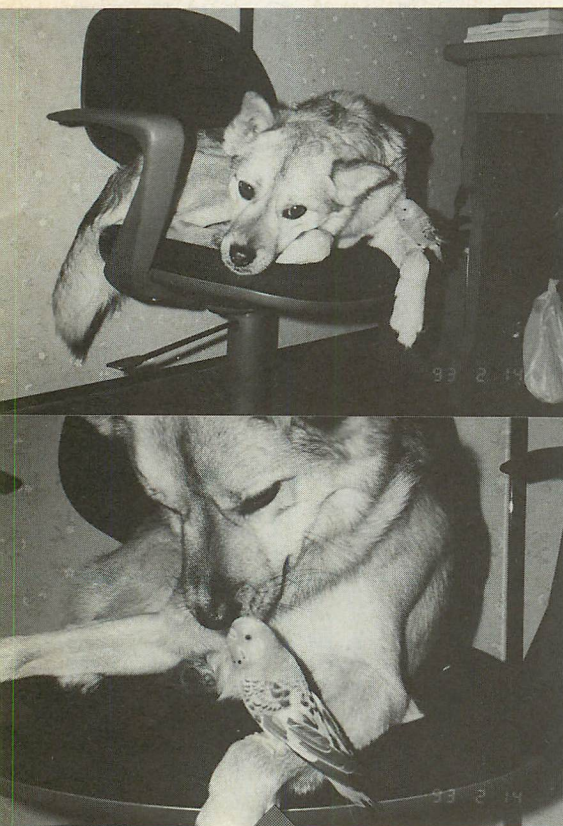
第20回全国ボーイスカウト 写真コンテスト

主催 財団法人ボーイスカウト日本連盟
協賛 富士写真フイルム株式会社
株式会社日本カメラ社
株式会社トミー
審査 秋山庄太郎氏

入賞作品
発表

(入選作品その3)

*「撮影者から」は、応募票に記されていたものを掲載しています。
*所属の記載のない作品は、加盟員ではない方からの応募です。
*今回掲載した作品はすべてカラー写真です。



入選
少年の部

東京・国立第2回
カブ隊

ないしよ話

瀧 誠志郎

撮影者から
わが家のコボル（犬）とピヨット（インコ）
はいつもとっても仲良しです。

鹿児島・鹿児島第2回
カブ隊

藤田浩輝

撮影者から
けむりがきたけど、がんばってさっえいしました。

めざせ！ファイアーマン

入選
少年の部



入選
少年の部

団委員長と家族

今橋頼之

愛知・知多第1回
カブ隊



少年の部
入選

撮影者から
にわか商人になって「いらっしゃーい!!」と
元気な声を出していたが「もっとまけてよ」
の声にシュンとしちゃう場面も:。

安いから買っていて

菅野 毅



入選
少年の部

カブたいのなかま

東京・町田第7団
カブ隊

友野陽介

撮影者から
ベーデン・パウエルたいしゅう会
でカブ弁を食べている。

イチ、ニィー、のサン!

兵庫・西宮第9団
カブ隊長

大垣内 宏

撮影者から
体力測定で記録に挑戦

成人の部
入選





成人の部
入選

みかん狩り(食べ) 日本一はぼくだー

東京・板橋第6団
カブ隊副長

井上信弘

撮影者から
秩父はみかんの日本最北端の生産地です。



入選
成人の部

スカウトと副長

東京・東久留米第2団
ローバー隊長

田中 洋

撮影者から
スケートの帰路、スケートが上手になれ
ないスカウトと

成人の部
入選

誓いの日

愛知・一宮第6団
団委員

五藤信夫

撮影者から
平成四年十月 入隊式にて





入選
成人の部

仲よし

広島・広島第13団
団委員

新苗篤実

撮影者から

(上)「わしが班長じゃけん」ガッハッハ
(下)「いい子いい子！」



成人の部
入選

幼アーティスト

並河信次

撮影者から
ちよっとした勇氣

*次号から第21回全国ボーイスカウト写真コンテスト作品募集が始まります。
お楽しみに！

真田幸村

徳川家康の無理難題に大阪城の秀吉の遺児・

豊臣秀頼と母・淀君は、ついに籠城を決めて徳川軍との決戦に備えた。関が原であぶれた、かつての武将や浪人たちが活躍の場を求めて、ぞくぞくと大阪城にはいる。家康は「どうせ寄せ集めの烏合の衆よ」と、気にかけるふうもなかったが、真田幸村が入城したと聞いたとき、注進におよんだ家来が控える敷居まで下りてきて「幸村が籠城したのは本当か」と問いたが、声はうわずり、仕切り戸にかけた手が震えていたという。それほど、幸村の戦略を恐れていたのだ。

真田家は武田信玄に仕えて上州を攻略する任についていた。信玄が死に武田衰退の中にあつて、沼田城を攻略して自分の持ち城としたのは、幸村の父・昌幸だった。彼は信玄のもとで戦略をじっくり学び、一城の主のしあがったのだ。信玄の子・武田勝頼が織田信長に滅ぼされると、千曲川丘上に上田城を築くが、関東の勢力地図はめまぐるしく変わっていく。

上杉、北条、徳川、豊臣と大勢力の中で、弱小の昌幸は身の処し方に腐心する。北条にたよって保身をはかるが、徳川と小田原の北条に姻

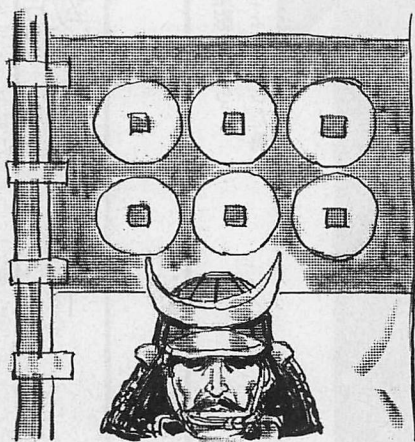
戚関係ができあがると、上杉家に和を乞い十九歳の幸村を人質に出した。最大の危機は徳川家康が駿河から江戸に下り、領土を差し出せと迫られたときである。やつと切り取った自領を大名・徳川の命とはいえ、やすやすと差し出す昌幸ではない。昌幸は承知するようなふりをして、自陣を固め家康に手切れを宣言した。

激怒した家康は鳥居元忠、大久保忠世など歴戦の諸將に七千の大軍をつけ、上田城に攻めかかってきた。守るは二千ほどの城兵しかない。戦略上迷路のように造られた家並みと、堀割の中に突入した徳川軍は、身動きもとれずにひしめいた。そこへ真田軍が寄せては引き、引いては寄せる。いきり立った兵たちが城壁に迫ると、銃弾が雨あられと降る。壊滅状態で撤退を始めるような追撃で、おりから増水していた神川に追い落とされた。

従軍していた大久保彦左衛門は「下戸が酒を飲んだように、ことごとく腰がぬけて、ふらふらと逃げ出すありさまじゃった」と、惨敗を語っている。昌幸は戦鬨のあいだ甲冑もつけず、

櫓の上で碁を楽しんでいたという。昌幸の武名は天下にとどろいた。彼にとつて幸運だったのは家康の重臣・石川数正が秀吉のもとに出奔するという事件がおき、長久手の睨み合いが終わり秀吉と家康が講和を結んだことである。

天下は秀吉に、関東一円は家康に落ちついた。昌幸は長男・信幸を徳川方に出任させて、重臣・本田忠勝の娘をもらい、次男・幸村を豊臣方につけて奉行・大谷吉継の娘とめあわせた。世にいう二股をかけたのである。



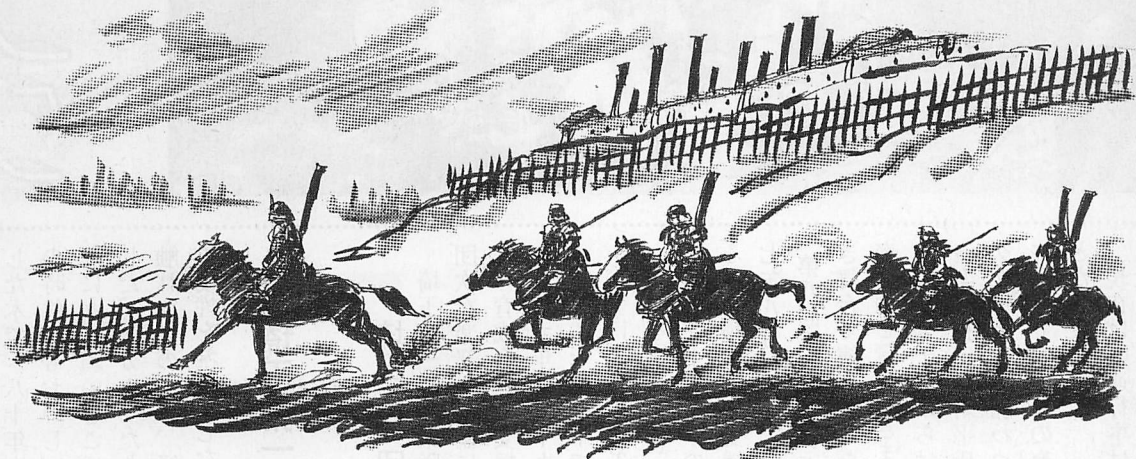
慶長五年（一六〇〇年）関が原の年である。

会津の上杉攻めのため家康は上州を北上する。徳川軍の中に三人の真田父子はいた。そこへ石田三成挙兵の密書が届く。大名たちは去就に頭を痛めた。身の振りかたで家の興亡が決まる。三人は密談をかさねた結果、昌幸・幸村は石田方に、信幸は徳川方へつくことが決まった。いずれが勝っても一家が残る。

とって返した昌幸・幸村父子は、二千五百の兵と上田城に籠もり、関が原に急行する三万の秀忠軍を釘づけするのである。指揮をとる幸村は父ゆずりの戦略を駆使して、三万の大軍を翻弄する。秀忠は天下分け目の戦いに間にあわず、激怒した家康に面会することも許されなかった。京都奉行になった徳川家臣・神沢貞幹は、「真田幸村は百年も人に語りつがれる奇策を幾百も用い、信州沼田以来ご当家に敵すること数回、一度も不覚をとったことがなく、当家にとつては毒虫のような存在と世間の噂である」と書き残している。

名はあがったが、関が原の戦いは一日で西軍の敗北となる。当然真田父子は死罪である。ここで二股をかけた長男の信幸が必死の命乞いをする。死一等を減ぜられた父子は、十六人の従者と共に高野山に流される。そして真田の旧領は信幸に与えられた。ここに策略は実を結んだことになる。

信州から配地へむかう道すがら昌幸は、「家康をこそ、このような目に会わせなかったのだ」と何度もうそぶいて、助命の恩義など塵ほども考えず、復讐の怒りに燃えていたが、その機会がくるまに生涯を終える。十年がたっていた。



徳川と豊臣の緊張は高まっていく中で、大阪方に勝算を求めて入城した武將たちは、ほとんどいなかったと言っている。幸村にも秀頼からの招きがくる。支度金は黄金二百枚、銀三十貫、勝利のときの恩賞は五十万石というものだったが、勝敗の見極めはとくについていたろう。彼は家康に一泡ふかせたく命をかけたのである。

監視役の百姓たちに酒をふるまって酔わせ、山を脱出し大阪城に入ったのは、幸村四十八歳であった。冬の陣が始まると城から突出した砦真田丸を築き、関東勢をいようにあしらう。あまりにも鮮やかな戦いぶりに敵味方を問わず驚嘆する。家康は叔父の真田信尹（のりたけ）を使者にたて、「信濃一國をあたえる」と言わせた。幸村の返事は「私欲のために動くのは、いさぎよくありません。この戦は勝ち目がないのはわかっていますから、討ち死にするつもりです。もしも万一、和睦ということになれば、あなたに奉公して少しの扶持をいただければ結構です」というものだった。

冬夏の陣の間に短い和睦がなった。彼は東軍の旧知の者たちと盃をくみかわし、今生の別れを惜しんだ。夏の陣に突入すると、堀を埋められて裸城となった大阪城から、果敢に打って出る戦法で慶長二十年（一六一五年）五月七日、真田軍三千の精銳は家康本陣に突っ込んだ。この猛攻は本陣前を固めていた越前勢一万五千を突破して、家康本陣に迫って旗印を倒した。徳川有史以来の屈辱である。家康はじめ本陣の兵士たちは三里も後ろへ逃げ延びて命拾いしたという。この戦闘で幸村戦死、四十九歳くしくも織田信長と同年であった。

DO! スカウティング

おいしい水を

いつまでも

青森第十団

去る五月十六日(日)、ビーバー、カブ、ボーイ隊のスカウト約五十人が参加し、ガールスカウト青森県第二団(寺島厚子団委員長)と合同ハイキングを実施しました。行き先は青森市萱野茶屋で、ここに米軍三沢基地内ボーイスカウト、ガールスカウト五十余名を招き、新緑のすがすがしい高原で、ゲーム、綱引き、スタンプを楽しみ、日米親善と交流をはかりました。

特に、当日は日本一おいしい青森市の水道水を保護する緑化運動を手伝うため、八甲田山麓へのブナ植樹を企画しました。植樹隊は萱野茶屋から山中に約三キロ入った、横内水源地のブナ造成地まで汗を流して歩き、水道部、森林組合の協力と指導のもと、植樹をしました。約四十センチの苗木をクワと闘いながら、土を掘りおこし、用意された苗木二百本を一本ずつ、



ていねいに植えました。

ブナは水源涵養林として最も適した木で、八十年から百年後の孫の時代にもおいしい水が飲めるようにと、願いをこめて植樹をしました。スカウトたちは、自然との触れ合いの中で、緑を大切にする重要性を学びました。

埼玉第一団音楽隊に

助成金

埼玉第一団音楽隊

埼玉第一団音楽隊は、越谷第三団吹奏楽部を基盤に、県内外の多くの育成会員の支援を受けて、昭和五十六年四月十九日、越谷コミニティーセンターで二十九名のメンバーにより産声をあげました。

この全国でも初めての試みに、県連も三十人乗りのバスを購入するなど積極的に支援し、昭和五十七年八月には南蔵王で行われた「第八回日本ジャンボリー」のひのき舞台で演奏するなど、幅広い演奏活動を続けてきました。

昭和六十年からは、埼玉県警察音楽隊長田畑新平氏がインストラクターとして加わって指導や指揮にあたり、一層の充実をはかることができました。

現在は県連行事はもとより、各地区行事などに年間十数回出演し

ています。

スカウトである以上、進歩やスカウト技能など通常のスカウト活動もあわせて行っていることは言うまでもありません。

これらの永年の実績が、財団法人音楽教育振興財団および毎日新聞社に認められて、今年三月三十日に東京如水会館で、同財団三浦規理事長から「音楽教育振興奨助成」が押田団委員長に授与されました。

本拠地越谷市にも都市化の波がいちじるしく、数キロ離れた人家のない畑までバスで移動して練習するなど苦労もありますが、埼玉県連盟の顔として埼玉第一団音楽隊は明日もスカウトの夢を奏で続けるのです。



韓国連盟から無窮花金章を受章



長により行われました。

ジョン・ミトワさんは日本で生まれ、横浜で最初のボーイスカウト隊「グリフィン隊」に入隊、以後長い間ボーイスカウトの発展のために力を尽くされています。一九五四年に韓国（仁川）に渡ってからも、韓国連盟の顧問として六名の指導者を日本の指導者訓練機関に派遣したり、日本ジャンボリーに韓国のスカウトとともに参加するなど、両国のかけ橋となって活躍されました。

神奈川連盟顧問のジョン・ミトワさんに、ボーイスカウト韓国連盟の最高の有功章である無窮花金章が贈られました。贈呈は四月二十九日（木）、神奈川県茅ヶ崎市で開催された神奈川連盟年次総会会場で、韓国連盟の承炳九事務総

横浜地区創立二十周年記念式典

「友情の集い」を開催

実行委員長 根岸 進一

五月三十日（日）、横浜文化体育館（横浜市中区）にて、横浜地区創立二十周年の記念式典とラリーが「友情の集い」として行われ、

横浜地区内のスカウト、友好団、ガールスカウト、一般市民などあわせて二千人が参加しました。

昭和四十八年四月、スカウト加

盟登録人数の増加にともない、旧横浜地区協議会が発展的三分割をしてボーイスカウト横浜地区協議会が誕生し、本年創立二十周年を迎えました。

第一部、記念式典は多数の来賓のご臨席の中、横浜地区カラーチーム隊を先頭に加盟二十七団の各隊の隊旗入場などで華々しく開会しました。式典の中では、歴代富士スカウト進級者の紹介や、映画「横浜地区二十年のあゆみ」の上映などが行われました。

最後はカラーチームと横浜ドラム・スカウトによるドリル演技が披露されて、第一部を終了しました。



第二部では、各行政区対抗の綱引き大会やジャンケンゲーム大会が行われて、記念ラリーにふさわしい規模の交歓ゲーム大会となりました。

続く第三部は、横浜市消防音楽隊の演奏とポートエンジェルス119のカラーガード隊による素晴らしいドリル演技が披露され、会場は大きな拍手であふれました。また、歌手の小口由紀子さんの歌とお話で合唱を楽しんだり、今年の夏に予定されている第三回横浜地区キャンボリー（3YL）の歌「友とつどいて」も披露されました。閉会セレモニーでは「光の路」の斉唱に続いて、ビーバー、カブ、ボーイ、シニアスカウトのそれぞれの代表四名が「横浜の、神奈川の、日本のスカウトとしての誇りをもって、世界のスカウトの一員として、ますます友情の輪を広げてゆきます。」と元気にスカウト宣言をしました。

最後に、実行委員長のあいさつ、秤 保雄大会長付の発声で弥栄を三唱し、式典を終了しました。

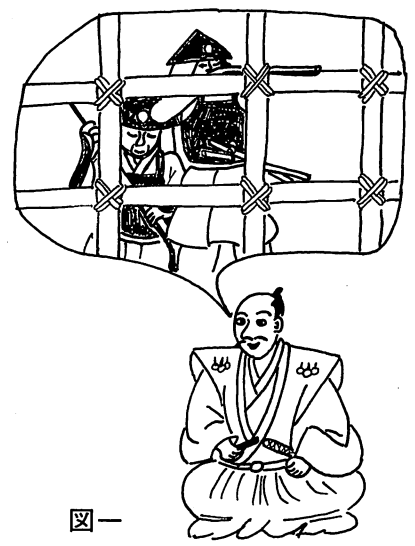
記念事業はこの後も続き、地区キャンボリー、記念バザー、記念誌の発行、祝賀会などを予定しています。

結びの街道 その五

馬防柵の結び

(広島・安芸第三団団員)
平本 昭南

織田信長が三千挺の鉄砲隊を三段構えにして戦った「長篠の戦い」は有名です。この戦いで武田騎馬隊の馬が突進してくるのを防ぐために作られたのが馬防柵です。馬防柵に用いられた結びについて時代考証家の名和弓雄先生と話をする機会がありました。今回はこの結びについて紹介します。

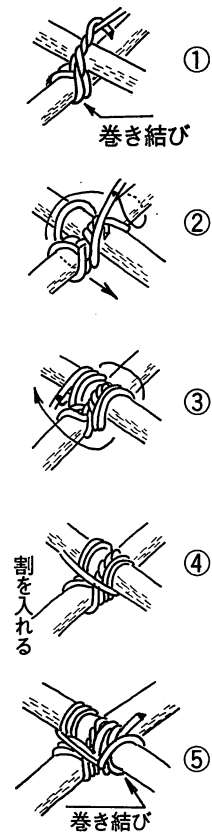


図一

A. ボーイスカウトの縛材法

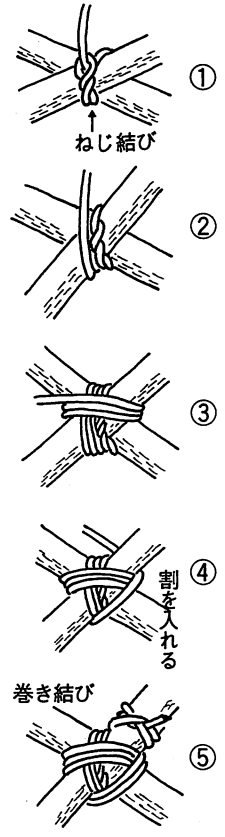
パイオニアリングに使う縛材法の結びを大きく分けると次の三つが挙げられます。

○角縛り (SQUARE LASHING)
直交する材木を縛りつける方法。(図二)



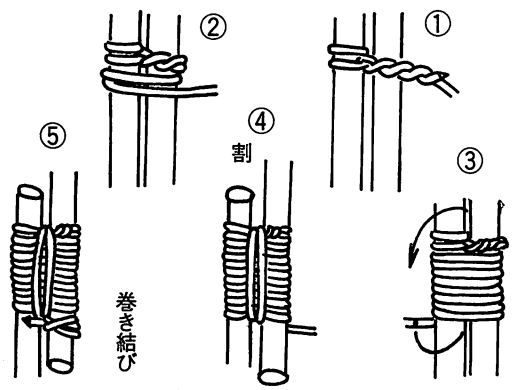
図二 角縛り

○すじかい縛り (DIAGONAL LASHING)
直柱に斜材を縛りつける方法。(図三)



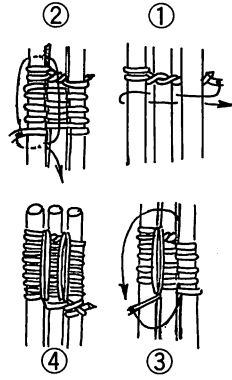
図三 すじかい縛り

○はさみ巻き、または巻き縛り (SHEAR ROUND LASHING)
平行した二本の材木を縛りつける方法。(図四)



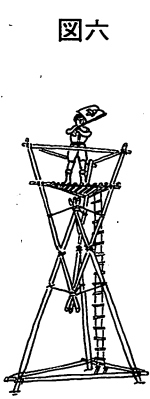
図四 はさみ巻き、または巻き縛り

【参考】8の字縛り (THE FIGURE OF EIGHT LASHING)
柱の頭を一緒にして、三本の材木を結ぶ方法。(図五)



図五 8の字縛り

これらの結びは洋書の中で見つけたものです。馬防柵と同じように角縛りとすじかい縛りも交わる二本の材木を縛る方法ですが、この二つは日本古来からの結びではないと思われます。

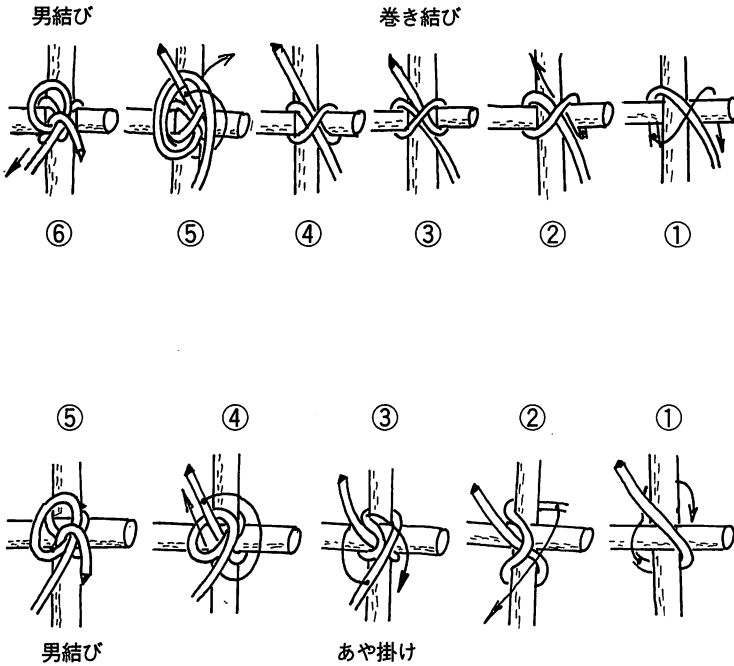


図六

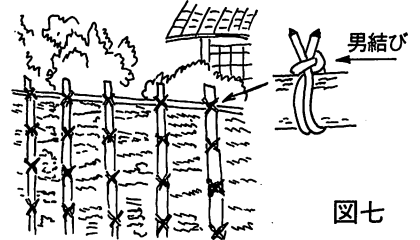
B. 割の無い結び

私たちがテレビや本などで「長篠の戦い」の模様を目にしたとき、馬防柵に用いられた結びに「割」が入っていないことに気づかれる方も多いと思います。この割の無い結びは造園関係の生け垣（図七）にも見られます。半農半兵が多い戦国時代に馬防柵に用いられた結びとは考えられません。

結び方から見てもⅠ巻き結びと男結びの複合結索（図八）あるいはⅡあや掛けと男結びの複合結索（図九）で、どちらも割と呼ばれるロープを引き締める方法が入っていないため強度が落ちるのです。



図八 Ⅰ巻き結びと男結びの複合結索

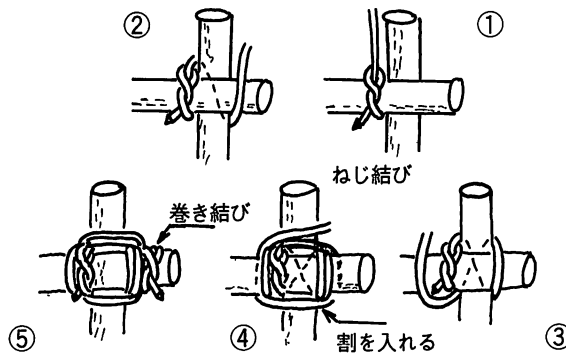


図七

C. 割のある結び

日本に伝わる結びを扱ったある文献を調べてみると箱縛り（図十）と日本式角縛り（図十二）の二つがありました。このどちらも割が入っているのです。強度もあります。

図十 箱縛り



箱縛り（箱縛り）

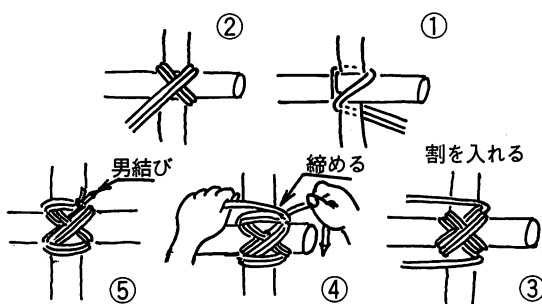
此の方法も日本式の方法だといわれている。建築、架橋の際の足場又は構等を作る時或は仮小屋を作る時等に使われる。……（中略）結び方は図十を参照）……

最後の索端は「巻結」で止めればよい。或は端と垣根結びにする方法でも、端と端とを一緒にして振り、前の巻いた綱の間に突き込んでよい。又縦の柱に横木を縛る時は前も後も櫛（即ち十字にかける）だけで終りを鼓止にするのがよく、横に木を渡す場合は箱だけにしてもよい。

もう一つ気をつけねばならぬのは始め「振結」をして斜に後に回して綱を必ず振結の上にかける事である。図示すると混乱するから重ならない様に示したから注意を加えた次第である。

（結索訓練）より引用／漢字かなづかい

※ ロープを二重にして結ぶ方法で旧陸軍の『拒架教程』に書かれています。

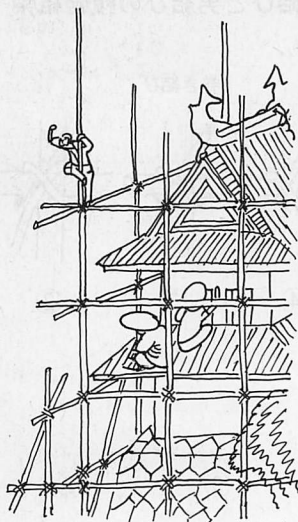


D. 箱縛りの用途

箱縛りが使われていると思われる用途には次の三つが見受けられます。

①城の足場（広重絵参照）（図十二）

図十二（広重の作品より描写）

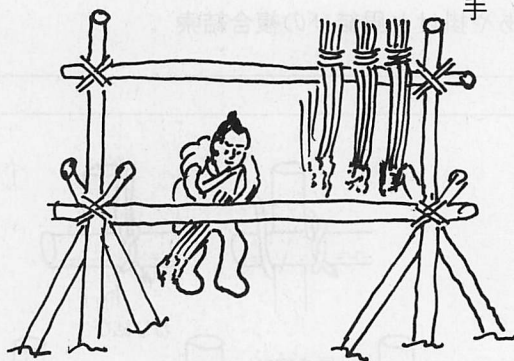


②高八手（図十三）

八手（はで）とは刈り取った稲などを乾かす木のことです。

広島県の高田郡では何段にも稲を干せる「高八手」というものがあります。一段だけの場合には馬の形に似ているので「馬八手」と呼ばれています。一般的には「八手」で通ります。（指導：宮崎シズ子）

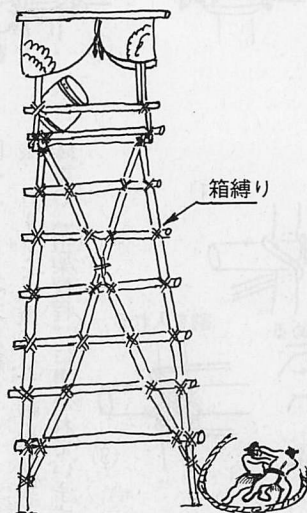
図十三 高八手



③相撲のやぐら太鼓（図十四）

テレビで相撲を見ていたら相撲のやぐらの結びが拡大されて映し出されました。箱縛りであると感じたので一度確認してみたいものです。

図十四



まとめ

馬防柵に用いられた結びは約四百年前のものであり、日本古来からある箱縛りなのか日本式角縛りなのか現在では分かりません。

しかし戦国時代の兵士たちは半農半兵の人が多く、農業で使われていた「高八手」の結びを馬防柵に応用することはだれでもできたはずだということは言えます。

皆さんの地域でも「八手」があったら、どんな結びが用いられているのか調べてみるのでもいいかもしれません。

参考文献

- 『担架教程』一二三館
- 『ボイスカウト ポケットブック』ボイスカウト日本連盟
- 『歴史読本（第二十巻、第七号）』新人物往来社
- 『歴史誕生 一』角川書店
- 『与力・同心・十手捕縄』板津安彦著 新人物往来社
- 『歴史街道（第五十四号）』PHP研究所
- 『結索訓練』菅原傳著 大日本青少年団

組織拡張、私はこう考える

スカウティング誌では、今年二回にわたって組織・拡張についての特集を掲載しました。(二月号「ボーイスカウト運動の発展を目指して」、四月号「組織拡張のための提言」) 読者の方からご意見、ご感想をいただきましたので、今月はその中からお二人のおたよりを紹介します。

組織の活性化を

香川・三豊第三団 カブ隊長

田中雅文

スカウト拡張に関するご意見を、スカウティング誌二月号、四月号で拝読し共感を覚えましてので私見を申し上げたく筆を取りました。

まず、二月号の「スカウト組織の安定的拡大について」は、ご指摘の通りと思います。ビーバー、カブの底辺を大きくしない限り、上部のボーイ、シニア組織の安定はありえません。私の所属いたします団でも一九九一年七月にビーバー隊が発隊し、これによりカブ隊長としての私は来期の入隊者数を予測することができ、このことを実感いたしました。反面、ビーバー隊ができる以前に新入隊員の募集で頭を悩ましていたことが単にビーバー隊長に移行したことを配慮し、常に連携した活動ができるようにしています。また、

ビーバーで確保したベースラインにさらに上積みする意味で、従来通りの新規隊員募集活動をやっております。

これまでの経験では、四年生あたりで少年野球、拳法など各種スポーツクラブ、学習塾などへ移行し辞めていく隊員が出てきます。ここでの減少を見越して、ビーバー隊からの上進者だけに依存することなく新規入隊者の確保に努めることが大切だと思います。

底辺を広げることの重要さには全く異議はないのですが、現実の児童数の減少を考えていつの場合、単純に倍増というのは極めて難しい問題だと思っています。ご提案の中にありました対象児童に対する各団の加盟率を今後問題とし、これを引き上げて行く方向での指導が大切ではないでしょうか。ちなみに私の隊では、全町一校区という良い条件にあるため約十三パーセントの加盟率となっております。今後これを引き上げて行くのはかなり大変だとは感じておりま

す。ただ全国平均の一・一八パーセントという数字を引き上げることについては、やり方によっては困難な数字でもないように思います。

またもう一つの課題として、ビーバーからカブ、ボーイ、シニアと上進していく中での定着率の悪さということがあげられます。特に中学生になるとやたらクラブ活動、塾などが多くなり、集まりが悪く活動も低迷するとの声がよく聞かれます。ビーバー、カブの底辺の拡大とともに、ボーイ、シニア隊での歩留まりをいかに向上させるかということも最重要課題の一つとして取り組んでいただきたいと思います。

そしてボーイスカウトはまだしも、特にカブ、ビーバーについての市民の認識、知名度は極めて低く、あらゆる機会を通じて活動をPRして行く必要があると思います。この点は、日連でも検討していただきたいと思っています。

また四月号では、「組織拡張

ないことですが。)

のための提言」として七つの提案をされておりますが、多少辛口ではありますがいずれも的確なご指摘であると思います。これを読んで少なからず反省される役員、指導者も多いのではないかと思います。

ボーイスカウト活動はボランティアで成り立っているという認識があるため、ご指摘の内容は十分承知していても、各々の組織において互いに血を流し合ってまで活性化しようとはしないのだと思います。これが企業組織と違うところであり、私自身どう対応していったら良いのか悩むところでもあります。仮に現在ほとんど消滅状態にある団の役員、指導者も、かつては積極的にボーイスカウト活動に取り組んでこられ、またボーイスカウトが好きであるということとを思うと、正面切った意見は言い難い面があると思います。結局、不満に思いながらそのまま口をつぐんでしまう場合が多いのではないのでしょうか。(これが会社組織ならばそうはいか

このような事態になったのは、ご指摘の「努力がたりない」に加えて「無責任である」とも

言えるのではないのでしょうか。何が無責任であるかという点、後継者の育成という点においてです。自らは積極的な良い役員、指導者であったかもしれないが、後継者が育っていないため、また育てようとしなかったために、その後の団、隊が衰弱していったと考えられます。そしてその無責任さを自覚することなく、役員、指導者として在籍しその引き際に気づかないという悲しい現実があるのではないのでしょうか。

現在のボーイスカウト活動の低迷は、社会情勢の変化もあるとは思いますが、これに対応できなかった活力の不足が最大の原因ではないかと思えます。人の流れのないところ、少なからず組織の活性度は徐々に低下していくものと思えます。関連して年功表彰などはそれほど意味のあるものでもないように思

ます。何年やったかではなく、何をやってきたかこそが問われるべきではないでしょうか。

歌を忘れたカナリアに歌うことの楽しさを思い出していただくためには、どうすれば良いのでしょうか。例えば五年に一度はポスト相応のリフレッシュ研修会への参加を義務付け、それが果たされなければ役員、指導者ポストへの就任を認めないなどの案はいかがでしょうか。まずは自主的な意識改革を求め、さらには日連としての指導力に期待したいと思えます。

日連でこれらの問題点について各県連、役員、指導者と個別にヒアリングを実施し、さらに具体的な問題点を指摘し、方策を指導していただきたいものです。例えばその地域の児童数を調査しておき、具体的な数字としての加盟率を提示し、これに對してなぜ加盟率が向上しないのか徹底認識させる必要があると思えます。さらに期限を切つてそれに対する具体的実施策を立案をさせるといった具合に、

改革と実施状況を注意深く見守っていくといったような強い姿勢が必要ではないでしょうか。

ビーバースカウトの拡張法

新潟・中蒲原第七団 団委員長

渡辺明雄

スカウティング誌四月号の中で、宇野組織拡張委員長による特集記事を読みました。責任ある立場からの率直な問題提起、そして解決のための提案。

そこで、本来ならば三年後をめどにスカウティング誌に報告させていただく予定でしたが、全国的にビーバースカウト隊の設置、増員策などの対策が急務であること、我が隊において予想以上の勧誘成果が出たことなどの理由から、私の所属する新潟連盟中蒲原第七団で、私なりに計画、実行し、成果を上げたことについてお知らせします。

平成四年十一月に団運営研修所新潟連盟第一期が開設された

際、研修の中で所長（田辺康彦 県コミ）が、新潟県内のスカウト比率が全国平均の半分であることから、努力の不足を訴えていました。そこで、研修後の奉仕実績訓練の中で自分なりにスカウト増員について具体的に行動してみようと考えました。

私は、スカウト募集は団員会が中心になってやることではないかと考えます。隊指導者は、親から託された子どもたちを良き社会人として育成していくという大変重要な責務があります。指導者が全力投球できるようにバックアップしていくのが団委員の役目と考えました。

そこで、どのような基本的理念で行動するか計画を立てました。まず、子どもの数が年々減少しているのでスカウト数も減少するのは仕方ないことと言いますが、これが本当に減少の理由であるのかを検証しました。

現在、出生率は一・五四人です。この点からすれば、子どもの絶対数は減少していることは確かです。それならばこそ、親

たちの我が子がたくましく健康に育って欲しいという感情は強くなるでしょう。ボーイスカウト運動は、この親の欲求にピッタリ合っています。アプローチさえ間違わなければ、増員は可能はずです。

次に勧誘の対象です。スカウトになるのは子どもですから、子どもが興味を持たなければ勧誘できないと思います。しかし、卒園間近の幼稚園児や小学校低学年の児童は親の意志、決意に大きく動かされます。まず、親を勧誘してみたいものです。

以上の二点から私がまとめたコンセプトは「子どもをボーイスカウトに入れるのではなく親をボーイスカウトに入れる」「親に訴えかける文章作りと行動を考えること」「行動に一貫性を持ち効率化を行うこと」の三点です。

まず親をボーイスカウトに入れるために、地域の広報誌に一月から三月の三回にわたり勧誘の文章を掲載しました。また、

地域内の役場や育成母体である亀田幼稚園を訪問し、ビーバースカウトの勧誘をお願いしました。そのほかにも、幼稚園のご協力により二十分ほど時間をいただき、今春卒園する園児百名の親に向けてボーイスカウトについての説明と勧誘を行い、保護者向けの文章、入団申込書と日連発行の入団案内リーフレットをセットにして配布しました。

以上のような行動の成果で、平成五年四月のビーバースカウト入団者は十九名となり、隊のビッグビーバーの合計が三十名になりました。

例年は十名から十二名ほどの数ですので、勧誘によつて団員数は倍増しました。また、今まで加入者のなかった地区から三名の加入者があつたことは広報活動の成果であると思います。

今回の経験を通じ、ビーバースカウトの募集は子ども向けではなく親の心、親の欲求に向けて行うこと、コンセプトをしっかり確立した上で、コンセプトに基づいた資料作りを行うこ

と、無駄な動きを少なくし効率を考えてやることなどが大切であることを感じました。

全国の先輩方の中には、すでに同じような方法で行動している団もあるかと思います。私が行動を起こすきっかけとなった団運営研修所の中から感じたことは、今こそビーバースカウト募集の絶好の機会であるということです。ぜひ勇気を持って取り組んでください。スカウティング誌を通して全国の方々と行動した結果について意見を持ち寄りましょう。そして良いところは学び、行動しましょう。この繰り返しですがボーイスカウト運動の発展の大きな力になります。皆さん、行動を起こしましょう。

＊スカウティング誌では引き続き組織拡張に関するご意見、ご感想をお待ちしております。みなさんの団の様子、成功した例、失敗した例など、全国の方々へのメッセージをお寄せください。

未現在の登録状況を見ると昨年に比べて半数の県連盟で加盟員数が増加に転じるなど、その効果を現わしてきています。

ここでは平成4年度までの取り組みを振り返るとともに、平成5年度中の組織・拡張に関する主な計画を紹介いたします。ここに挙げたものをはじめ、加盟員

一人ひとりによる様々な前進の中にこそ、加盟員数の増加ひいてはボーイスカウト運動の発展が見えてくるはずです。

本年度は加盟員倍増5か年計画の最終年度です。加盟員一人ひとりが日常活動を通して重点目標を実現すべく一層努力してくださるようお願いいたします。

平成3年度	平成4年度	平成5年度(計画)
		最終年度。
1.すべての団にビーバースカウト隊を設置する。 2.指導者の資質の向上を図る。 3.みんなで1級スカウトを育てる。 4.各県連盟にスカウトクラブを設立する。	「ちかい」と「おきて」の実践に励み 1.すべての団にビーバースカウト隊を設置する。 2.指導者の資質の向上を図る。 3.みんなで1級スカウトを育てる。 4.各県連盟にスカウトクラブを設立する。	「ちかい」と「おきて」の実践に励み 1.すべての団にビーバースカウト隊を設置する。 2.指導者の資質の向上を図る。 3.みんなで1級スカウトを育てる。 4.地域との連携の強化に努める。
ビーバー隊数で千葉、加盟員数で長野両県連盟が目標を達成し顕彰された。 (平成4年5月)	1.加盟員数の目標達成……山梨・長野・福井・奈良連盟 2.ビーバー隊数の目標達成……千葉・愛知・奈良・宮崎連盟	増加目標を継続して設定。
1.15県連盟、1ブロックが開催する団委員長集会等に組織・拡張委員長等を派遣。 2.各県連盟の倍増計画への取り組み実態調査を実施。	1.富山・高知県連盟を組織・拡張モデル県連盟に設定。 2.8県連盟1ブロック計13回の団委員長集会等に組織・拡張委員長を派遣。 3.9月12日(土)から、公立学校の週5日制が開始された。	1.三重・広島連盟を組織・拡張モデル県連盟に設定。 2.各団のスカウト数の最低目標を60名以上と設定。
1.5月中央審議会で、1地区・同一市町村に複数のスカウトクラブを組織できるように改めた。 2.『結成報告第1号』(大阪スカウトクラブ)。 3.スカウティング誌にQ&Aの資料掲載。	1.『結成報告』(22クラブ)。 2.スカウティング誌に大阪スカウトクラブの事例紹介。	各地区内に最低1つのスカウトクラブが設置されるように努力していく。
ボーイスカウト展(7県連盟) ファクシミリ設置(1県連盟)	ボーイスカウト展の開催等(6県連盟) ファクシミリ設置(2県連盟・累計27県連盟)	ボーイスカウト展の開催等 ファクシミリ設置
ボーイスカウト説明会開催の手引き、および説明会用ビデオを作成。	1.資料「団を作るには」を作成、配布。 2.ビーバー・カブ入隊説明会用パンフレット作成。	1.ボーイスカウト日本連盟紹介ビデオを作成。 2.ビーバー・カブ紹介ビデオを作成。
全県連盟を対象に実施。		県連システムの開発(継続中)。
プログラムに関する規定改正。	1.ボーイ部門に関する規定改正 (平成5年4月施行)。	1.トレーニングチームの在り方および指導者訓練体系の改定に伴う規定改正(平成5年5月施行)。 2.デンリーダーの年齢規定改正、技能章新設(平成5年5月施行)。
1.新登録料(1名1,000円)実施。 2.17WJに2,675名の日本派遣団参加。 3.全国の隊長を対象とした「プログラムに関するアンケート」実施。 4.ビーバーの登録開始時期を小学校入学前年9月から可能とすること(組織・拡張委員会提案)については、関係委員会およびコミッショナー間で継続協議する。	1.3NV開催(滋賀県他)。	1.全国ローバースカウト大会 (北海道)。 2.アジア太平洋地域「地球に優しい」国際キャンプ(大分)。
263,460名(－5,358名)	261,070名(－2,390名)	

最終年度、一層の飛躍を

加盟員倍増への取り組みを振り返って

昭和58年度（加盟員数約33万人）をピークに加盟員数の減少を続けてきた日本連盟は平成元年度から加盟員倍増5か年計画を推進してきました。大きな目標のため実現までには隔たりがありますが、平成5年3月

—加盟員倍増5か年計画への取り組み—

	項 目	平 成 元 年 度	平 成 2 年 度
1	加盟員倍増5か年計画	全国会議で承認され実施される。	
2	重 点 目 標	1.指導者の資質の向上。 2.広報活動の充実・活性化。 3.教育規定の改正。 4.魅力的プログラムの提供。	1.1級スカウトの育成。 2.指導者の資質の向上。 3.ビーバースカウト隊の設立促進。 4.ボーイスカウト運動の教育関係機関への理解促進。
3	加盟員倍増顕彰		7月、要領決定、実施。達成県連盟は無し。
4	倍増計画への取り組み	1.カブ隊の継続登録に関する救済措置を前年度に続き実施（37県連盟220こ隊に適用）。 2.9月、文部省は資料「児童生徒の学校外活動への積極的参加について」を各県行政担当者会議に配布。	組織・拡張委員会は、倍増計画の具体的展開方法を示した資料「組織倍増促進について」を12月中央審議会に提出し、承認を得る。
5	スカウトクラブの組織		スカウトクラブの制度化に関する規定改正。 『スカウティング』誌に「スカウトクラブの手引き」掲載。
6	県連盟への組織・拡張補助金	ボーイスカウト展（7県連盟） ファクシミリ設置（1県連盟）	ボーイスカウト展（5県連盟） ファクシミリ設置（1県連盟）
7	資 料	1.PR普及ビデオを作成。	ボーイスカウト説明会用パンフレット（双六付き）を作成。
8	登録事務のコンピュータ化		5県連盟を対象に試行。
9	教育規定の改正	1.日本連盟の進歩委員会をプログラム委員会に変更。 2.カブ部門の規定改正 （平成2年9月施行）。 3.運営委員長会同、教育本部役員の任期・就任期間制限の規定改正。 4.婦人指導者の特別承認廃止 （平成2年4月施行）。	1.ユニフォームを改正。 2.9月以降の新規入隊者の登録料を半額に改正。 3.指導者養成の規定改正。 4.スカウトクラブの制度化。 5.標準団の構成にビーバー隊を追加。 6.カブ隊の暫定的組登録（平成3年4月施行）。 7.ローバー部門への女子の参加（平成3年4月施行）。
10	その他	1.『スカウト』『スカウティング』両誌の体裁を6月号から一新。	1.総長諮問委員会が2年間の協議結果を答申書にまとめ2月に提出。 2.10NJ開催（新潟県）。 3.新方式の指導者訓練コース開始（指導者講習会・ウッドバッジ研修所）。 4.新たに9月15日に「スカウト奉仕の日」を実施。
参考	加盟員数（対前年度比）	276,424名（－11,014名）	268,818名（－7,634名）



第十一回日本ジャンボリー

(11NJ)

期間 平成六年（一九九四年）
八月三日（水）～七日（日）

会場 大分県 久住高原

テーマ 「蒼き草原より 未来へ」

地球にやさしい

ジャンボリーをめざそう

服装・携行品

1. 服装

- (1) 参加者の服装は制服（正装、活動着）とします。
- (2) 開会式・閉会式は正装で参加します。
- (3) 自隊のサイト内および作業に従事する場合、それにふさわしい服装とします。
- (4) ネットカーフは、県連盟が指示するものを着用してください。

参加申込方法

11NJへの参加は、予定申込↓
確定申込の二段階で行われます。

1. 参加予定申込

- (1) 参加者は、1名につき五千円の参加予納金を添えて、平成五年九月末日までに県連盟に申し込みます。
- (2) 県連盟は、県連盟内の参加予定人員その他について次の項目別に整理し、平成五年十一月末日までに参加予定申込書と参加費予納金を日本連盟事務局に提出します。

2. 携行品

11NJの携行品と野営装備は、快適な野営生活を維持し、かつ、楽しいジャンボリー活動が展開できるよう、簡素で、しかも精選されたものを準備してください。その標準は、次のとおりです。

(1) 個人携行品

・加盟員登録証・運動靴・制服（正装、活動着）・水泳パンツ・バジマ・作業着・作業用手袋・寝具類（シュラフなど）・水筒・雨具・洗面具・各種着替え・補修用具（針・糸など）・ロープ・筆記用具・ナイフ（旅行中は腰

2. 参加確定申込

- (1) 参加隊のスカウトおよび指導者などの参加予定人員
 - (2) 奉仕隊のスカウトおよび指導者などの参加予定人員
 - (3) SHQ（サブキャン本部）・GHQ（ジャンボリー本部）要員および県連盟派遣団本部要員の人員と名簿
 - (4) 人員および荷物の輸送方法
- 確定申込書は四通作成し、一通は各隊、一通は県連盟控とします。県連盟控はジャンボリー会場に到着したとき入場手続きに必要となりますので、県連盟派遣団本部が持参し受付で提示してください。残りの二通は県連盟を通じて日本連盟事務局に提出します（内、一通はSHQ控）。
- (2) 日本連盟事務局は確定申込を受領後、速やかに審査のうえ参加承認書、参加章、ジャンボリー隊旗、参加綴その他必要な物品および書類を県連盟を通じて参加隊・奉仕隊に送付します。
 - (3) SHQ・GHQ要員および県連盟派遣団本部要員についても前記(1)(2)の方法に準じて行います。
 - (4) 外国派遣団の申込方法は別に定めます。

(2) 隊・班の携行品および装備

・テント・フライシート・グラウンドシート・灯火類（ランタン、懐中電灯など）・工具一式・救急用品一式・配給開始前後の食料品・修理用具一式・国旗（隊ごとに一式）・炊事用具一式・会場付近地形図（二万五千分の二）久住・久住山・参加申込書・交歓、営火用品

* 参加隊・奉仕隊に、ジャンボリー隊旗と旗手を支給します。その他隊旗に必要と思われる付属品は各隊で用意してください。

* 11NJの炊事用燃料はプロパンガスを基本としています。各隊はプロパンガス用のガスコンロ・ホース・ホースバンド（各四台分）とガスコン

(3) 県連盟派遣団本部

・県連盟用参加申込書・県連盟旗一式・参加隊、奉仕隊名簿およびサブキャン配置図・予約品引換証他必要書類・その他、県連盟が必要と認めるもの

(4) サブキャン本部

・大会運営に必要なもの

（備考）

・会場は日影が少ないので、フライシートを用意してください。

・外国派遣団が携行困難な資器材は、国際部からの申し出によりジャンボリー本部で準備します。

募集



雄大な大分県久住山麓の大草原で開催される第11回日本ジャンボリー（平成6年8月3日～7日）にふさわしく、またスカウト諸君に長く親しまれる、明るく楽しい歌を募集します。スカウト関係者以外の方もふるってご応募ください。

11N J 準備委員会では、11N J の歌を2曲制定することにしました。このうち1曲は専門家をお願いし、現在、作曲を樋口康雄氏に、作詞を岩谷時子さんにという、いずれも著名なお2人のご協力をいただいて曲づくりが進められています。

そして、もう1曲を広く皆様から公募することになりました。

第11回日本ジャンボリーの歌

Jamboree Song

応募方法

締切り／平成5年9月30日（必着）

送り先／〒181 東京都三鷹市大沢4-11-10

（財）ボーイスカウト日本連盟「11N J の歌」係

審査／11N J 実行委員会

発表／「スカウト」「スカウティング」誌12月号誌上

表彰／入選1点〈賞状および副賞〉 佳作2点〈賞状および記念品〉

備考／①曲付きの歌詞、または歌詞のみで応募してください。

②歌詞、曲とも修正して使用することがあります。

③応募作品は、1点ごとに住所・氏名・年齢・職業（スカウト関係者は所属・級・役務）を明記してください。

④応募作品はお返ししません。

⑤入選作の著作権は、（財）ボーイスカウト日本連盟に帰属します。

**Greener Nature, Better Future
Make it an Earth-Friendly Jamboree**

ROVER MOOT '93 NEWS

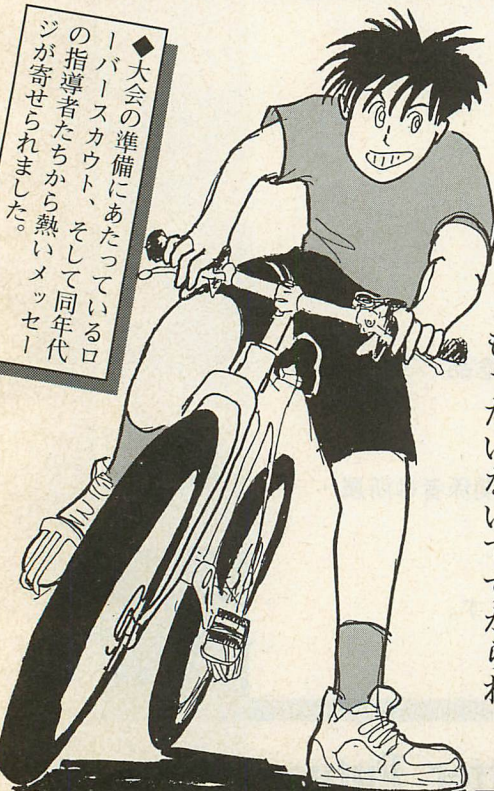
開催間近!!

その日、北海道で

ローバームート'93 参加者決定

ローバームート'93参加者

ローバーおよび同年代の指導者 (男性)	454名
〃 (女性)	20名
ガールスカウト	27名
指導者	22名
外国スカウト	20名
合計	543名



◆大会の準備にあたっているローバースカウト、そして同年代の指導者たちから熱いメッセージが寄せられました。

いよいよ今月十七日(火)から二十一日(土)にかけてローバームート'93が開催されます。参加者の皆さん、とりあえずドーンといってみましょう。このチャンス、ありのままの自分を出さなきゃもったいないですからね。

Hokkaido

皆さんと一緒にがんばります！

全国

から、海外から一体どんな仲間たちが集まるのか楽しみです。大会を通じて何か心の中が動き出すようなものを持ち帰ってもらえることを期待しています。

ムート委員会総務部長 斎藤達郎
(東京・港第十六回ローバー隊)

『青

少年山の家』のことなら私をバックアップします。『自分でも満足できる仕事』がばくらのテーマです。ムート委員会主催会場部長 吉田年成
(北海道・札幌第一回ローバー隊)

大会

の1つの目玉、エクスペディションには特定のテーマは見つけて挑戦してみよう。

ムート委員会エクスペディション部長 道見正直 (北海道・留萌第一回シニア隊インストラクター)

大会

は何と言っても友だちを作る場です。ふとした瞬間の道具の貸し借りが新しい友情の始まりだったり、そんなふうであつたらいなと思いつつ地道にがんばります。

ムート委員会施設・資材部長 高塚勇 (北海道・札幌第一回ボーイ隊副長)

ム

トのもう一つの目玉はディスカッションです。皆さんがどんな活動を行っているのか、どんな未来へ向かっていきたいのか、思う存分夢を語りあってください。全体プログラムの全てが語りあつた仲間たちとの一体感にあふれ、皆さんの心に残る大会になることを願っています。

ムート委員会全体プログラム部長 岡地俊幸 (愛知・名古屋第八十四回ローバー隊)

今回

のムートに海外からも仲間が参加します。日本のはがんと彼らとの橋渡し役として、国際部はがんばらしてもらいます (関西発音)。若い指導者の皆さんが海外や日本の仲間たちと触れあつて、ローバー活動に目覚めてくれるとええなあと考えています。

ムート委員会国際部長 岩瀬オデコ洋 (大阪・大阪第二十一回ボーイ隊副長)

若く

体力にあふれた俺たちが指導者だけやっててももったいないよね。全国へと『ローバー活動やりたいぜ』症候群が連鎖反応で広がって、日本中がローバーの嵐となる！というのが理想だな。

ムート委員会副委員長 寺岡義政 (東京・新宿第二回ローバー隊)

◆これらムート委員会各部のとりまとめ役の副委員長三人も！

全て

のローバースカウトがローバー活動をやり、同年代の指導者もそれに巻き込み、そして全員が夏の大会に参加する。この大会をその未来像への第一歩とする。なあってえのが夢なんだけどマジで。

ムート委員会副委員長 河合嘉一 (愛知・豊橋第四回ローバー隊)

『や

りたい』までじゃなく『やる』とまで決意できる大会になるといいですね。今の自分も前の大会でそう思つて、ここにいるという感じなのです。

ムート委員会副委員長 佐藤佳博 (北海道・札幌第三回カプ隊長)

◆最後に、大会の準備・運営の全般をとりまとめるムート委員長言葉です。

参加

して一緒に大会を作り上げてくれた全国の仲間たちが、それぞれに『今まで知らなかった楽しさ』を見つけて持ち帰ってくれることが私の願いです。やっぱり『楽しさ』が全ての原動力だと思います。あらゆる意味で、本当に『楽しい』大会にしていきたいと思う。参加者の誰もが次のムートを心待ちにするような。

ムート委員会委員長 石田正弘 (北海道・恵庭第四回ローバー隊)

夏の感動大賞。

手づくり文集のすすめ——。

トムソーヤ、ハックルベリーフィン、ロビンソンクルーソーそしてあなたの隊のスカウトたち。夏の隊キャンプの記録をみんなて本にまとめてみませんか。

1年間の活動のクライマックスともいえる夏のキャンプ。スカウトがここで得た体験や印象は、まるごとノンフィクションです。一人ひとりが何を感じ、どのように成長したかをウキウキ読んでもあげましょう。スカウトの自信と誇りは大いに高まり、新たなチャレンジへの原動力となること間違いなしです。

この文集が、父母にとってはキャンプの最高のお土産。学校の先生には夏休みの自由研究報告書として。指導者の間ではプログラムの情報交換に。スカウティングの正しい理解と普及のために大きな力を発揮します。

TADAS BOOKSはこの手づくり文集をワンクラス上の作品として、ご満足いただけるようお手伝いいたします。ただいま案内書を無料進呈中です。どうぞ、ご連絡をお待ちしております。

合作・傑作・自信作 廉価版

TADAS BOOKS

ただす

紵書房

☎075-781-8925 FAX075-711-5430
〒606 京都市左京区田中大塚町129

平成五年度 「スカウトの日」 情報④

「スカウトの日」まで、あと一か月ちょっと。「どんな活動を？」とスカウトと一緒に知恵をしぼっている指導者の皆さんも多いことでしょう。

一口に「地域社会に貢献する」といっても形はいろいろ。「スカウトの日」も無限大の広がりを持っているわけですね。

今回は世界各地で行われている「地域社会への貢献」を紹介します。それぞれの地域で、それぞれの形でがんばっています。

私たちも「スカウトの日」に……！



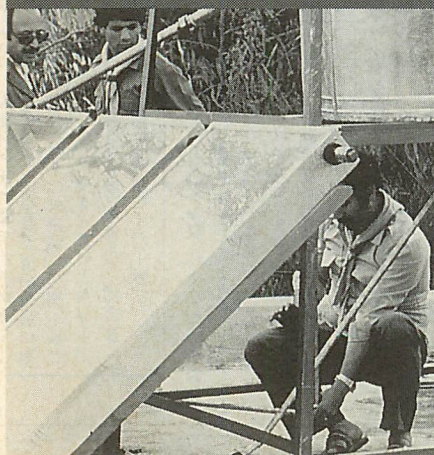
●インドではボーイスカウトとガールガイドが読み書き教室を開いた。

●セネガルのスカウトは井戸を掘り、モデル農園を作った。



●ペルーのある村で作物が不作となった。その原因は灌漑用水に流れこんだ家庭排水。スカウトたちは地域の人々と協力して灌漑設備を整備した。

●ヨルダンでは太陽熱温水器を作り、紹介していった。



世界各国でボーイスカウトは
地域社会に貢献しています！

日本連盟からのお知らせ

●報告

お年玉付き郵便葉書等に付加された

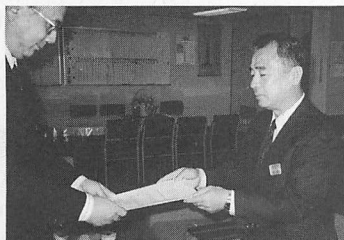
寄附金の配分について

お年玉付き年賀葉書のうち、絵入り年賀葉書等には寄附金が付加されており、社会福祉の増進や青少年の健全な育成等に役立てられています。

日本連盟も郵政省からのこうした寄附金の配分を受け、スカウト運動の発展に活用しています。

平成五年用のお年玉付き郵便葉書等に付加された寄附金配分(三月二十四日付)の決定通知書交付式が東京・三鷹郵便局にて行われました。

今回の寄附金は野営用寝台の整備事業に充てられます。



三鷹郵便局での寄附金配分決定通知書交付式



交付式の後、郵便寄附事業と青少年活動について懇談が持たれた。

●研修会報告

スカウトソング研修会

六月二十五日(金)から二十七日(日)にかけて、熊本県立天草青年の家で開催されました。参加者は六県連盟二十四名。スタッフは村上智真委員長ほか四名。歌唱および歌唱指導の研修を行いました。

●指導者養成

コミッショナー研修所日本連盟第4期
期間 平成5年6月4日～6月6日
場所 日本連盟那須野営場
所長 川村 収(他、所員6名)
入所者 11県連盟22名
(また、韓国連盟からオブザーバー2名がいらっしゃいました。)



●国際関係(派遣員募集)

第九回オーストラリア(第一回アジア太平洋)

ベンチャー派遣

派遣人員 スカウト…三十六名

指導者…四名 計四十名

期間 平成五年十二月二十五日(土)～

平成六年一月十四日(金)

場所 オーストラリア クイーンズランド州

ブリスベン カリソガル野営場

経費 一名あたり四十万円を予定

申込期日

県連盟を通じて日本連盟への推薦を平成五年九月十六日(木)までに行う。

●八月の日本連盟

八月中の主な予定をお知らせします。

八月四日(水)～八日(日)

アジア太平洋「地球に優しい」国際キャンプ(エコキャンプ)

八月十日(火)～十五日(日)

ウッドバッジ実修所カブ課程第九十七期

八月十三日(金)～十七日(火)

リーダートレーニングコース第十五期

八月十七日(火)～二十一日(土)

平成五年度全国ローバースカウト大会(ローバームート'93)

八月二十四日(火)～二十九日(日)

ウッドバッジ実修所ボーイ課程第一〇九期

ボーイ部門の本

ボーイ部門の教育規定が改正され、この4月から実施されました。これに伴って、進級課目、特修章課目が一部変更され、新たに4つの特修章が加まりました。

これらの内容を加えた、ボーイ関連書籍の新刊・改訂版がいよいよ登場します。

移行期間は平成6年の3月末までです。

あなたの隊の移行時期の検討に、まずお役立てください。



ボーイスカウト
隊長ハンドブック改訂版

¥1,000 需品品番 61284

教育規定改正に伴って、新たな内容も加えました。

隊長のみならず、指導者みなさんにご購読をおすすめします。

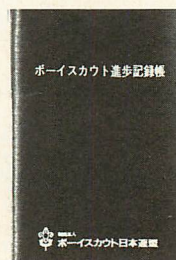


ボーイスカウト隊長ハンドブック別冊
進歩課程の進め方（新刊）

¥450 需品品番 61290

指導者の方々の一助になればと、新たに発行しました。

進級、特修章などの指導の方法、進級課目の解説などを取り上げています。



ボーイスカウト
進歩記録帳

¥150 需品品番 69608

新規定に移行したら、スカウトにすすめてください。

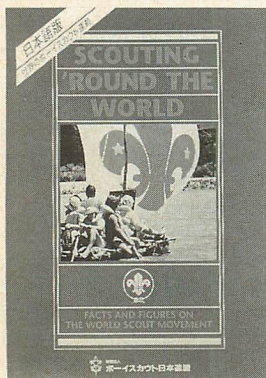
新特修章は、スカウトにぜひ取り組ませたいものばかりです。

期待の新刊も登場

新刊

世界のボーイスカウト運動

¥1,500 需品品番 65559

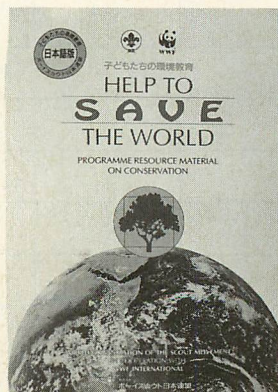


世界各国の連盟の情報が満載です。各国の概要から、スカウティングの状況、スカウト章、加盟員数、部門の構成、標語などが一目で分かります。また、巻末には地図もありボーイスカウトが世界的な運動であることを実感できる一冊です。

好評発売中

子どもたちの環境教育

¥1,500 需品品番 65573



他に類を見ない具体的な環境保全のプログラム集。一般書店でも売行きは好調です。ハイキング、キャンプなど、野外の活動も増えるこれからの季節、プログラムの参考にぜひお求めください。



トピックス

東京ドーム・楽園物語'93

ルナ・パーク・ユネスコ&

NGOファクトリー

(株)東京ドームでは、昨半夏、東京水道橋の後楽園ゆえんちなどのイベントを通してユネスコの活動を紹介しました。今年の夏は「楽園物語'93」と題して、ユネスコの活動のみならず、国内のNGOの活動紹介コーナーを設けます。

後楽園ゆえんちでは、九月十五日までの夜間(十七時から二十一時)「ルナ・パーク」と称して営業。主に社会人や学生をターゲットとした

この時間帯に、施設の一部を「ユネスコ&NGOファクトリー」とし、国内十三団体のNGOがパ

ネル展示やニューズレター配付を行います。また、日本ユネスコ協会連盟、ユネスコ・アジア文化センターの活動に関する常設展も行われています。

期間中、各施設の収益の一部は「世界寺小屋運動募金」に寄付され、国際協力活動を支援します。また、九月八日のユネスコ・デーには後楽園ゆえんちが一日無料開放されます。

お問い合わせ
(社)日本ユネスコ協会連盟

03-3340-3921

夏休み親子エコロジ

スクールのご案内

環境問題は、一人ひとりのライフスタイルの変革なしには解決できない問題です。ジャパンエコロジセンターでは、夏休みの数日を親子で、日々の生活がどのように環境問題にかかわっているのか、自分たちでできることは何なのかについて、気づき、行動していくきっかけになるようなスクールを企画しています。

ジャパンエコロジセンターは、日本リサイクル運動市民の会が運営する環境問題の総合情報センターです。環境問題に関心をもつすべての方々が自由に活用できるオープンスペース、環境図書および国内、海外の市民団体の資料の閲覧、エコロジ

ーグズの展示、販売を行っています。フリースペースではさまざまなセミナーが行われています。

日程

八月三日(火)

描いてみよう環境ポスター

映画上映会「美しい地球を汚さないで」

八月六日(金)

実験教室「酸素を生み出す緑」

八月十八日(水)

草や牛乳パックで「環境メッセージ」ハガキを作ろう

八月二十日(金)

人形劇「食品添加物の話」と安全なおやつづくり教室

お問い合わせ

〒162 東京都新宿区袋町3

ジャパンエコロジセンター

03-5228-3370

子どもについて考える標語を募集

国際家族年記念

「児童福祉週間標語募集」

厚生省では、毎年五月五日「こどもの日」から一週間を児童福祉週間と定め、関連行事がさまざまな場所で実施されますが、平成六年は「国際家族年」でもあり、これを記念して児童福祉週間を中心に催される行事やポスターに使用する標語を全国に募集します。

テーマは「すべての子どもが心身ともに健やかに生まれ、育つために」です。応募資格はありません。どなたでも応募できます。また、応募作品の点数についても制限がありませんので、何点でも応募できます。

応募はハガキに、郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、連絡先電話番号を明記し、次のあて先に申し込んでください。

〒100-91
東京中央郵便局留置

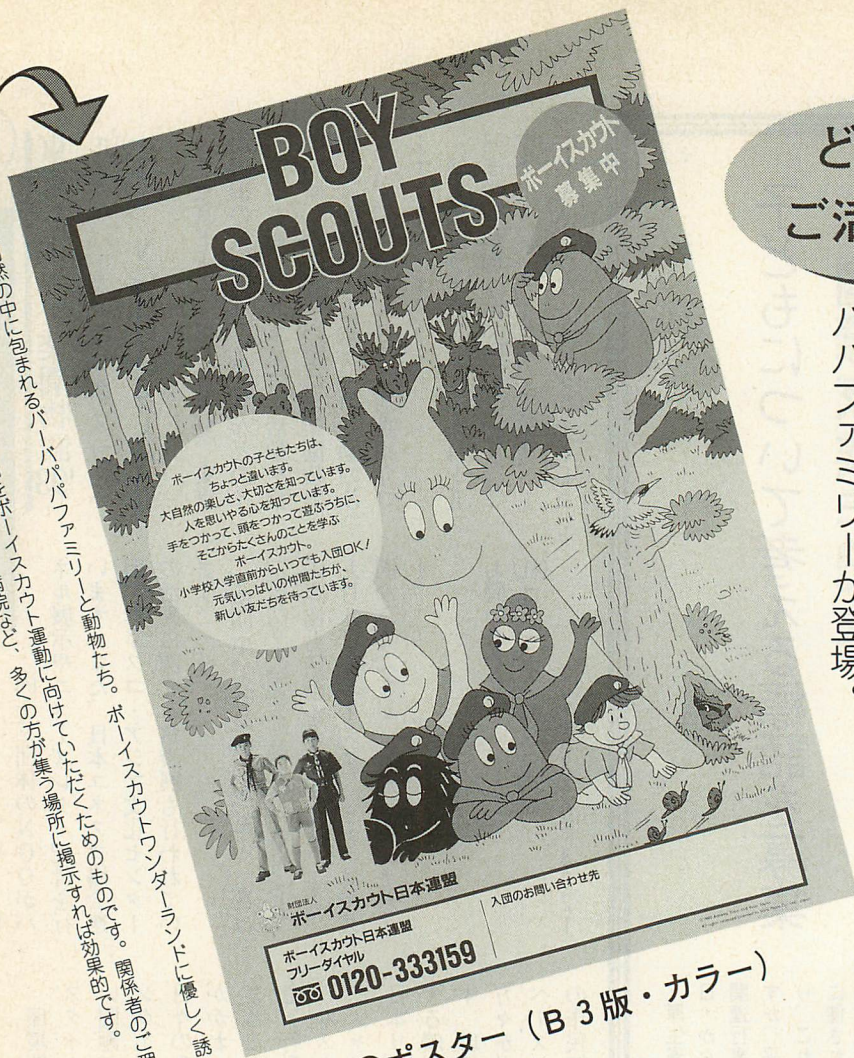
「児童福祉週間標語募集」係
応募締切は平成五年十月三十一日(当日消印有効)です。入選作品には、賞状および記念品を贈呈します。たくさんのご応募をお待ちしています。

平成五年度普及資料が完成しました

どうぞ
ご活用を!

各県連盟または地区を通じてお受け取りください。
資料が足りなくなった場合は、各県連盟にご連絡ください。

ポスターとリーフレットには
『スカウト』誌でおなじみのバーバ
パパファミリーが登場。

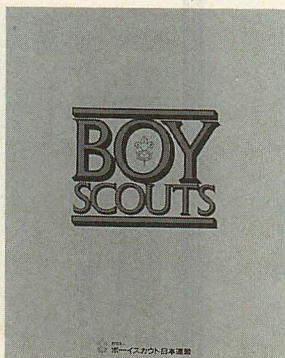


●ポスター (B3版・カラー)

年間活動例の紹介など、ビーバー・カブ部門に焦点をあてて案内をしています。ボーイスカウト運動の飛躍のため、特にビーバー・カブ部門における一層の充実化に取り組まれている団が多いと思います。ぜひ、ご活用ください。

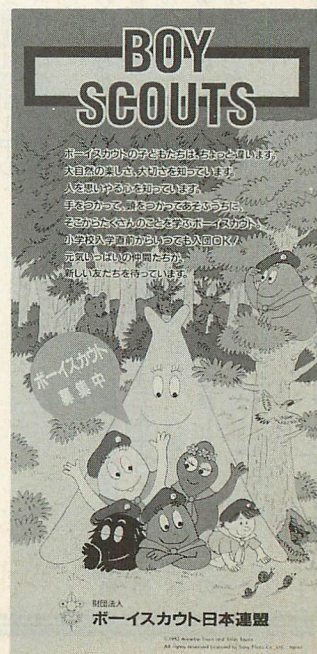
●BOY SCOUTS [団体案内] (カラー)

県連盟・地区レベルでの広報資料です。
行政・教育機関・報道機関へのアプローチ
などに活用してください。



ボーイスカウト運動の内容や各県連盟連絡先などが分かりやすくまとまっています。(需品部でもお取り扱いしています。品番77800 10部1セット¥200)

●リーフレット (三ツ折、カラー)



大自然の中に包まれるバーバパパファミリーと動物たち。ボーイスカウトワンダーランドに優しく誘ってくれます。
このポスターは一般の方の目をボーイスカウト運動に向けていただくためのものです。関係者のご理解のもと、各種公共施設・駅・銀行・郵便局・病院など、多くの方が集う場所に掲示すれば効果的です。

●ビーバー・カブ入団案内リーフレット (二ツ折、カラー)



ボーイスカウト運動のために

維持会員加入のご案内

青少年の健全な育成を目ざして

ボーイスカウト運動は、子どもたちが社会の変化に対応し、自ら解決できるような強い精神力、社会に役立つ技能、健康な体を養い、徳性をみがくことを目的とする教育活動です。

ボーイスカウト日本連盟は、子どもたちへの温かい理解と、青少年健全育成の熱意に燃えるボランティアの成人指導者の協力のもとに、主として野外を活動の場として、小学生から大学生年代まで綿密に組まれた活動プログラム（進歩制度）と、異年齢の子どもたちでつくるグループワーク（班制度）によって健全な青少年の訓育に励んでいます。

また、ボーイスカウト運動は日本だけのものではなく、現在131の国々で約1600万人が活動しています。社会教育運動としては他に例を見ないほどの国際性を持ち、世界各国においてその意義が認められています。

この運動にあなたの財政的なご援助を

本連盟ではこれからも1人でも多くの青少年をボーイスカウトに迎え入れ、将来有為な日本人となるよう、いっそう努力を重ねたいと存じます。現在までも多くの加盟員、また非加盟員、法人の方々からのご賛同をいただいておりますが、多面的な活動を展開するためにはさらに多くの資金を必要としています。この運動の趣旨をお汲み取りいただきまして、より多くのみなさまの財政的なご援助を賜りますよう、お願い申し上げます。

維持会費は次のような事業に使われます

みなさまからお寄せいただきましたご厚志は、・ボーイスカウトの組織の拡大、・訓練プログラムの充実、・指導者の育成、・青少年による国際交流、・野営場の取得と整備、など、明日の日本を担う健全有為な青少年の育成に活用させていただきます。

財団法人ボーイスカウト日本連盟 維持会員申込書

ボーイスカウト運動の趣旨に賛同し貴連盟維持会員として、次のように申し込みます。

通常維持会員
(年額10,000円以上) _____ 円也

特別維持会員
(年額100,000円以上) _____ 円也

法人維持会員
(年額100,000円以上) _____ 円也

年 月 日

郵便番号

住 所

氏 名

所 属 団

県連盟

ご紹介者

県連盟

氏 名

維持会員のお申し込み

このページの申込書を切り取り、必要事項を記入、捺印の上各都道府県連盟事務局またはボーイスカウト日本連盟にお申し込みください。

納入方法

会費の納入は、次のいずれかの口座宛にお願いいたします。

- 郵便振替の場合：東京3-56119
(財)ボーイスカウト日本連盟
- 銀行振込の場合：三和銀行武蔵境支店
(普通) No.310054
三菱銀行三鷹支店
(普通) No.4001756
富士銀行調布支店
(普通) No.548079

口座名：(財)ボーイスカウト日本連盟

税制優遇処置について

本連盟は文部大臣より「特定公益増進法人」の認可を得ておりますので、維持会費には

一定の税制優遇（法人の場合は別枠損金算入、個人の場合は寄付金控除）処置が図られます。

維持会員の種別と会費

維持会員には次の3つの種別があり、会費は下記の通りです。

通常維持会員 年額 10,000円以上
特別維持会員 年額 100,000円以上
法人維持会員 年額 100,000円以上

*維持会員になられた方には、会員章（通常・特別維持会員）、会員盾（法人維持会員）を、また「維持会員だより」（年2回発行）と日本連盟月刊誌「スカウティング」（特別・法人維持会員の方のみ）をお届けします。

・お問い合わせは

連盟：TEL _____

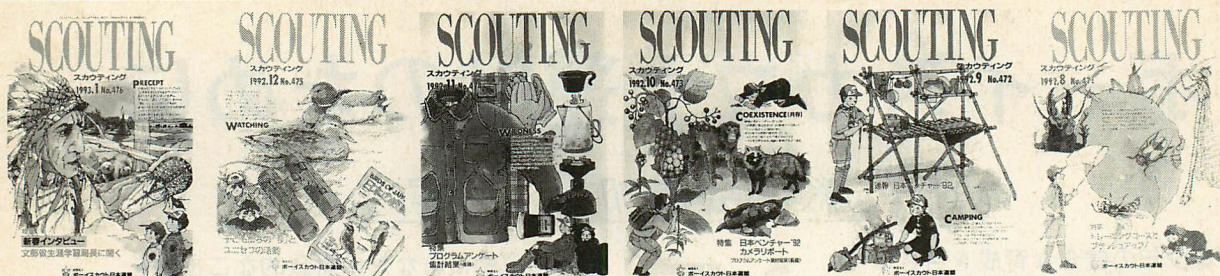
または、(財)ボーイスカウト日本連盟事務局
(総務部経理課)TEL.0422-31-5161

<複製してご利用ください>

ご支援ありがとうございます。

*維持会員（平成5年4、5月に会費を納入された方々・敬称略）

【栃木】菊池重雄、中臣昭範、星光二、【群馬】重原進、【埼玉】浅野正男、【千葉】賀田恭弘、根岸真太郎、根本孝英、【東京】荒尾雅也、伊藤登、高輪淳一、渡邊昭、【新潟】秋山順成、【石川】三輪谷訥、【静岡】稲森利次、鈴木千賀雄、【愛知】大塚貴信、【三重】要乗堂清流、【京都】長谷川純二、【兵庫】富永和男、【和歌山】荻野昭裕、竹内利満、【大阪】喜多文夫、田中雄喜、【岡山】金光善行、西田全司、【広島】土手謙、浜岡富夫、【山口】河野宗昭、黒神公直、樋口日出男、益田宗親、【香川】永木圭一、【福岡】篠原郁夫、野中保利、守部巖、井上訓朗、井上幸子、【大分】安藤伸



＜'93-1月号＞
新春インタビュー
文部省生涯学習
局長に聞く

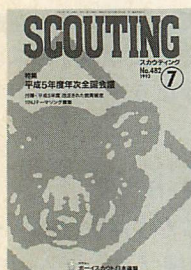
＜'92-12月号＞
子どもたちの「今」と
ユニセフの活動
世界の子どもたちを
考えよう

＜'92-11月号＞
プログラムアンケート
集計結果（後編）
日本における
ボーイスカウト活動の
現状をさぐります

＜'92-10月号＞
日本ベンチャー'92
カメラレポート
プログラムアンケート
集計結果（前編）

＜'92-9月号＞
速報
日本ベンチャー'92
ベンチャー特集第1弾！
発表！シニア作文
コンテスト最優秀作

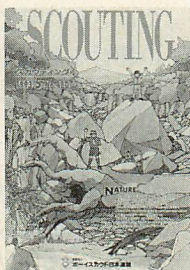
＜'92-8月号＞
発見 指導者養成
'92夏/秋
トレーニングコース、
トレーニング参加状況、
トレーニングコースの
思い出など



＜'93-7月号＞
報告 全国会議
教育規定改正（付録）
加盟員倍増5か年計画
最終年度に臨む。



＜'93-6月号＞
知らせてください
あなたのスカウティング
全国から寄せられた
楽しい活動を紹介。
ぜひ、あなたも。



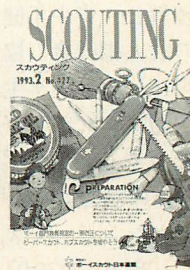
＜'93-5月号＞
地域社会に生きる
ボーイスカウト
充実した団になる
秘訣とは？
実際例でさぐる



＜'93-4月号＞
組織拡張のための提言
組織を拡張するためには
何が必要か？
7つの提案



＜'93-3月号＞
第2回アジア太平洋
地域環境教育
セミナーレポート
環境・明日では遅すぎる、
今、行動の時



＜'93-2月号＞
ビーバースカウト、
カブスカウトを増やそう
ボーイ部門教育規定
一部改正について

○お知らせ

第五回 EARTH展

―「森のコスモロジー」―

森の物語を知るために―

森にはそこに暮らす全ての生物、無生物が複雑に紡ぎだす「物語」があります。そこは陸上で一番多くの生物種が共存できる場所なのです。

第五回 EARTH展はアートを通じて多くの方に自然あるいは自然保護を考えるきっかけを提供しようとするものです。

主催：（財）日本自然保護協会（NAC）

―S―

会期：平成五年八月五日（木）～十七日（火）

会場：シブヤ西武B館八階・Bフオーラム
（東京都渋谷区宇田川町二二―一）

入場料：無料（ただし、「トークショー」入場料千円）

展示内容：「アーティストによる作品と資料の展示」・「一般公募のメー

イベント：「チャリティーグッズの販売」・「トークショー」（八月

八日）・「フィールドワーク」（八月十五日）

（八月十五日）

お問い合わせ先：（財）日本自然保護協会

〒105 東京都港区虎ノ門一―八―

虎ノ門電気ビル 四階／

〇三（三五〇三）四八九六

●スカウティング誌は再生紙を使っています。

貴重な森林資源を守り、自然の恵みに感謝して、今後も緑豊かなスカウティングの教場が維持できるように願っています。

正誤表

「ボーイスカウト隊長ハンドブック」平成5年5月15日
発行・改訂版「参照ページ」に下記の誤りがありました。
お詫びして訂正いたします。

頁	場所	誤	正
44	開みの下	215	→ 223
45	上から4行目	215	→ 223
62	下から2行目	164	→ 170
65	下から2行目	237	→ 242
66	上から9行目	316,317	→ 324
72	下から4行目	354	→ 362
91	下から4行目	130	→ 134
249	下から5行目	316,317	→ 324
250	下から7行目	254	→ 255
261	下から4行目	316,317	→ 324
274	下から1行目	257	→ 265
315	下から8行目	308	→ 316
317	下から1行目	309	→ 317
331	下から1行目	328	→ 336
339	上から3行目	332	→ 340

▼お詫び

●現在、発売されている『世界のボーイスカウト運動』に不完全な部分がありました。お詫び申しあげます。正しいものとお取りかえいたしますので、ご希望の方は返品ください。（送料日本連盟負担）
●本誌七月号二十五ページ下から六行目に「団運営実修所」とありますが、これは「団運営研修所」の誤りです。お詫びして訂正いたします。

「スカウト」「スカウティング」は、全国各団に各一冊お送りしています。団の通信連絡先にお送りしておりますので、住所の誤り、変更がある場合は日連組織部まで一報下さい。なお、団配布の購読料は、登録料に含まれています。

※本誌のバックナンバーを希望されるときは、はがきで日連広報課までご注文下さい。

Scout '93年-8月号
スカウト No.395

■ルックワイド

この夏、魚になれば
キミのフィールドがもう1つ
水泳章

■スカウトもりもりコミック③⑧

登山を楽しく安全に
まんが・莊司としお

新しいキャンプ用品を 新しい気持ちで!

- 発売を開始したばかりの新しい需品のなかから、夏の活動に関連するものをお知らせします。

需品部
NEWS

① 倉営ザック
¥6,400 品番83546
素材：ナイロン420d
ハイバロン加工
サイズ：65×48×34cm
容量：30ℓ(最大)



左右のファスナーで容量を変えられるワイドタイプ。シュラフをザックの上に取付けばより多くの収納が可能。



③/④ アタックザック
¥16,000
品番83555(ブルー)
品番83556(レッド)
素材：ナイロン420d
高密度アクリル加工
サイズ：32×83×28cm
容量：70ℓ(最大)

荷物の量に応じて50ℓ～70ℓまでの使い方ができる可変タイプ。インナーフレーム、ウエストベルト、厚めのパッドなど背負い心地は抜群。(写真は60ℓと70ℓの使用例)

② ディパック
¥3,300 品番83502
素材：ナイロン420d
ハイバロン加工
サイズ：30×37×11cm
容量：10ℓ(最大)
日帰りハイキングや学校の遠足に最適。



⑤ シュラフ
(クオロフィル600)
¥11,800 品番83186

生地：ナイロン64d撥水加工
サイズ：220×70cm 重量：1.2kg
中綿：デュボン社製クオロフィルを600グラム使用

羽毛を越える保温力と透湿性を持つ新素材の中綿を使用したマミー型のシュラフ。3シーズン用、収納袋付。



⑥ シュラフ
(デュアルサーモ) ¥8,000 品番83170

生地：ナイロン70d撥水加工 サイズ：200×75cm
重量：1.1kg 中綿：保温性に優れたデュボン社製
ホロフィルII 700グラムを使用
人形型を改良し、機能アップと軽量化、コンパクト化を追求。両サイドに逆開閉式オープンエンドファスナーを使用。3シーズン用。

INFORMATION

ボーイスカウト・カレンダー'94

予約受付が始まりました。

- 毎年好評の1994年版カレンダーは
ただいま予約受付中です。

●販売価格/¥600 ●品番/68494



※写真は1993年版です。



ビッグな自然を友達に。

自分流のキャンプで、新しい感動を発見しよう。

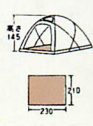
行動派のキャンパーにピッタリの
オートキャンプ専用ドームテント、
「フィールド・ドリーム」シリーズがいま人気だ。
ウッドランド4・5・6に加え、新たにグラスランド4・6が
ラインナップ。高品質素材の採用と新機能を装備で
快適性・居住性をさらにパワーアップして新登場。
デッカイフィールドの中で、
ファミリーで、グループで楽しいキャンプを！

WoodLand4

フィールド・ドリーム[®] ウッドランド4

¥78,000 ●品番-2644

●就寝部人数(JIS)/4人用 ●重量
/幕体:5.8kg、フレーム:1.5kg ●素
材/本体・フライ:ナイロンタフタ70d
(耐水圧1500mm)、フレーム:7001ア
ルミ合金、本体11φmm・9.5φmm、ヒ
サシ8.5φmm

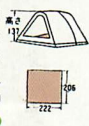


GrassLand4

フィールド・ドリーム[®] グラスランド4

¥65,000 ●品番-2647

●就寝部人数(JIS)/4人用 ●重量
/幕体:5.3kg、フレーム:2.1kg ●素
材/本体:T/C(65/35)、フライ:ポリ
エステルタフタ75d(耐水圧1000mm)、
フレーム:6061アルミ合金13φmm、70
01アルミ合金9.5φmm



QuAppelle2

ワールドトレッカー[®] カベル2

¥33,000 ●品番-2633

●就寝部人数(JIS)2人用 ●総重量/2.5kg
●素材/本体・フライ:ナイロンタフタ70d(耐
水圧1500mm)、フレーム:7001アルミ合金8.5φ



QuAppelle3

ワールドトレッカー[®] カベル3

¥38,000 ●品番-2634

●就寝部人数(JIS)3人用 ●総重量/2.7kg
●素材/本体・フライ:ナイロンタフタ70d(耐
水圧1500mm)、フレーム:7001アルミ合金8.5φ



ダイナミックな自然に溶けこむ
ツリーテント・カベル。
ライトウエイト&コンパクト設計と、うれしい
張り出し標準装備で、贅沢な居住性はもちろん、
軽快なフットワークを約束してくれる。
君の標準装備カベルで、爽快ツリーテントを。



●F92ファミリーキャンプカ
タログをご希望の方は、
郵便切手500円を同封の
上、商品企画室BS係へ
までお申し込みください。

小川テント株式会社

本社/〒135 東京都江東区冬木10-13

レジャー用品東京営業所 ☎(03) 3641-7128 (代)

商品企画室 ☎(03) 3641-7127 (代)

広島営業所 ☎(082) 251-6178(代)
大阪営業所 ☎(072) 62-1010(代)
名古屋営業所 ☎(052) 991-1011(代)
札幌出張所 ☎(011) 631-8901(代)
福岡出張所 ☎(092) 411-0658(代)